190
350

信時庵双羽宗匠撰

冠吟拾萬集

京都三書房發行

特28
647

俳道進み行まゝに國風冠句日にへみ月にかさみ年を五十餘萬の句をゑらみつくゑに堆く秀詠芳吟すくなからずされば

この儘に庵の反古となし隱しおくべきといとをしけれとて則書林三酉樓のあるし活字版にうつして世に廣く出さん事の應諾して花かむりと題し十萬句集のうち三百題三千句を初卷として出しぬ

明治第三十三年夏

信時庵主人

冠吟拾萬集目次

〔い の 部〕〔ゐ の 部〕

●祝
●いろ〳〵と
●岩の上
●いらはれて
●いとしい事
●今はむかし
●一生の德
●いはひしど
●いたい〳〵
●いら〳〵と
●今からすぐ
●勢ひよう
●命をのばし
●居替りて
●田舍に育
●いそがしい
●今迄とは
●命ながらへ
●家の寶
●因緣ぢや
●いま〳〵しい
●今そこに
●今頃は
●いそ〳〵と
●色がつき
●一心に
●いつまでも
●命がのびる
●田舍
●糸引て
●今は夢
●命がけ
●入がよい
●言はひでしれた
●腿が啼
●去んで來て
●伊勢へ參り
●今そこで
●今にまだ
●一素もう
●祝いはふて
●いたみ入り
●井戸の中に

〔ろの部〕

●露路を出で　●勞した功　●論をやめ
●露路から　●六十過ぎ　●ろくに直し
●蠟燭たて　●ろくに聞かず　●櫓を揃へ

〔はの部〕

●春は格別　●濱風に　●はへたく
●晴ぢやく　●曠ぢやく　●はやい事
●はじめが大事　●はやいこと　●歯の根があはぬ
●はつきりと　●はびこりて　●張こんで
●はさんで置　●はらくと　●腹うつて
●花り咲　●肌ふれて　●はづんでる
●箱に入　●花ざかり　●針をもち
●羽織着て　●濱歩行　●はるくと
●はんなりと　●橋わたり　●はしかけて
●花が有　●はつしてる　●はれわたり
●はやりもの

〔にの部〕

●人徳ぢや　●二重三重　●庭へ下り
●人面獣心　●似合しい　●女房の役
●逃よつた　●握つて見て　●賑合しい
●錦かざり　●にしき着て　●にこくと
●西も東も　●二度の縁　●濁らして
●二三反　●にゑたく　●二本出し
●にくまれて　●人氣澤山　●人見て法
●にしひがし　●庭をながめ　●人氣がたち
●人形抱　●逃てまはり

〔ほの部〕

●ほのぐと　●盆へあげ　●細長う
●ほめてもらひ　●ほつくと　●ほのかにきゝ
●凡夫の知慧　●惚こんで　●ほれたく
●奉公して　●本家から　●星明り
●ほめられて　●ほめまはし　●本意ない事

●細い〳〵　●ほどこして　●ほしけりややる
●ほしてゐる　●骨身にこたへ　●ほそ〴〵に
●ほどよしぢや　●ほつとして　●骨折て
●ほつたらかし　●本出して　●佛

〔へ の 部〕

●返事して　●偏屈もの　●紅つけて
●へい〳〵言ひ　●變な事　●へばりつき
●へそよらし　●別條なし　●へつこんで

〔と の 部〕

●滯りなう　●十ヲが十　●戸をあけて
●年を隱し　●時を待　●所かはれば
●取て投　●年をとはれ　●途方にくれ
●戸をたゝき　●とりまぎれ　●とん〳〵拍子
●飛んで出て　●とりかわす　●頓智よう
●とうなりと　●どや〳〵と　●取勝ぢや
●ところ〴〵　●供が四五人　●飛退て

●所から　●友が寄　●とれた〳〵
●迚もまあ　●俱々に

〔ち の 部〕

●ち〳〵登り　●ちり〳〵ばら〳〵　●ちら〳〵と
●近寄るな　●塵も山　●直接に
●一寸見て　●ちから入れ　●違ひどほし
●ちよろ〳〵と　●ちがひない　●地震に合ひ
●ちりまふれ　●ちんまりと　●知慧しぼり
●近いなあ　●塵拂ふて　●馳走になり
●ちんと居り　●ちから一ぱい　●血に染り
●父も母も

〔り の 部〕

●理があり〳〵　●恪氣して　●理屈づめ
●臨時御用　●りきんでる　●立派々々
●理屈ばかり

〔ぬ の 部〕

●濡たまゝ　●ぬけました　●ぬりなほし
●ぬけめがない　●ぬれました　●ぬくもりて
●糠に釘　●ぬしがあり　●ぬつと出て
●ぬし　●濡手で粟　●ぬくみがあり

〔る の 部〕

●留主預り　●留主使ひ　●流勞して
●留主でも内でも　●留主番がてら　●類がない

〔を の 部〕〔お の 部〕

●をゝ見事　●をしい〳〵
●笈摺着て　●をかしい事　●おそい〳〵
●をがんでる　●音さして　●をしまれて
●男　●男づく　●女の聲で
●おもふとほり　●おもひ〳〵　●押へつけ
●面白い　●おなし事を　●親にあり
●思ひがけない　●恩を知り　●追々繁花
●おなぐさみに　●思ひ出し　●奢りすき

●奢らぬやう　●重たい〳〵　●奥から口迄
●鬼　●大勢がより　●おたのしみ
●欲へど〳〵　●折がよい　●男伊達
●落してる　●親ぢやもの　●大きてこまる
●おだやかに　●思ひ〳〵

〔わ の 部〕

●われた〳〵　●綿買て　●藥打て
●わしぢやてゝ　●若うても　●若いけれども
●笑はれな　●笑ひな〳〵　●笑はれて
●わきまへて　●若いわいだ　●笑ひが出て
●わかります　●わかりませぬ　●若うつくり
●若い時分は　●和合して　●我一と
●譯聞て

〔か の 部〕

●垣が出來　●加減して　●學文して
●歌道から　●學の德　●金子もあり

●限りなう　●神に願ひ　●囓附られ
●隱しても　●かみわけて　●から〳〵と
●かしこいやつ　●かぶりつき　●上にも下にも
●感心ぢや　●肝心ぢや　●風一荷
●鴨もらひ　●神さん願ひ　●紙もんで
●髮結て　●堪忍して　●覺悟して
●かきまはし　●風がやみ　●可愛さうに
●隱れ忍で　●感心〳〵

〔よの部〕

●世がようて　●慾はなれ　●餘處ながら
●慾はいや　●嫁となり　●豫算持
●よかろ〳〵　●嫁が出て　●嫁が來て
●横からぢや　●夜もすがら　●呼とめて
●よそ〳〵しい　●横になり　●宵から朝まで
●宵の間に　●世が世なら　●よろこんで
●よしあしぢや　●よい時ぢや　●夜の眼もあはぬ
●夜をまち　●よい事して　●慾がない

〔たの部〕

●たがひに氣張　●谷で迷ひ　●たつてゐる
●太鼓うち　●旅は道連　●瀧にうたれ
●竹植て　●たいていなら　●たしなんで
●たのみ甲斐あり　●高い〳〵　●竹持て
●便になり　●たい〳〵つな　●たゝでもいや
●立ならび　●たわいもない　●鯛奢り
●たん〳〵と　●たれにでも　●たしなみよい
●達者〳〵　●玉のやうな　●立ても居ても
●出すもの出し　●立寄て　●達者で在す

〔れの部〕

●禮義正しう　●例はかゝさぬ　●戀慕して
●例にして　●例になり　●煉瓦造り

〔その部〕

●袖振て　●そないまあ　●それからそれへ

●添とげて　●底たゝき　●そろ〳〵と
●それ見たか　●そつちもこつちも　●それは〳〵
●素ぶり見て　●そこが大事　●そつとあけ

〔つの部〕

●つもり通り　●月見して　●綱つけて
●つてんどん　●つり錢かへし　●机にのせ
●詰て居る　●包んでる　●月がかはり
●つんとして　●追善して　●月夜ぢや〳〵
●つゝしんで　●つかひよい　●つまらぬなあ
●つひそこら　●つかまへて　●月が出て
●つらいこと　●常が大事

〔ねの部〕

●ねぶりつき　●寐たそうな　●願が叶ひ
●寐しづまり　●寐てもゐられぬ　●眠たがり
●念入て　●根分して　●念佛唱へ
●寐ながらに　●眠氣さまし

〔なの部〕

●ならんで行　●泣く〳〵な〳〵　●何事も
●ならんでる　●何者ぢや　●夏も過
●何はさて置　●何のため　●なふりな〳〵
●泣顔して　●なつかしい　●なるほど〳〵
●長い〳〵　●なみならぬ　●なんでもよい
●何かしらぬ　●なんとまあ　●慰に
●なかめが盡ぬ　●浪　●なにもかも
●なんぞはしい　●なんとまあ　●なき出して
●ならへます

〔らの部〕

●樂に寐て　●來年も　●樂にくらし
●亂心して　●樂になり　●埒があき
●亂騒ぎ

〔むの部〕

●向かはり　●むせたく　●むりながら
●群合ふて　●むつかしい　●むかひから
●むすんで置　●陸まじい　●聟さん貰ひ
●むしがつき　●むさくと　●むつくりと
●無理いふな　●むりはない　●無理もいろく
●むしくと　●向も隣も　●昔も今も
●むりむたい

〔うの部〕

●憂な事　●嬉しさうに　●うつくと
●現になり　●運のつき　●啌について
●うしに乗　●内に居るか　●裏から廻り
●噂が高い　●梅もあり　●嬉しい事
●うつすりと　●歌がすき　●氏より育
●うきくと　●うきくと　●啌でなかつた
●上にも下にも　●うつかりと　●裏がへり
●上を下　●敬はれ　●敬ふて
●うんともすんとも　●上にうへあり　●運がひらき

●啌のかは　●俯向て　●うつくしい

〔のの部〕

●殘りなう　●のんどりと　●のれん越し
●野風呂さけ　●殘して置　●のきなされ
●咽ならし　●軒づたひ　●能ウ
●のらついて　●幡立て　●軒ならび
●覗てる　●退てねられぬ　●のんでおく
●咽ならし　●のみこんで　●乘かへて
●野も山も　●後ともいはず　●のけておき

〔くの部〕

●くさみして　●黒うなり　●雲行見て
●口々に　●くすぶつて　●口惜しい
●荒地をひらき　●藥になり　●癖になり
●ぐるりから　●供養のため　●工夫はさまぐ
●藥り　●ぐずくと　●括られて
●會日には　●くんで居る　●杭打て

●位があり　●雲がかゝり　●九分九厘
●工面して　●會　●會毎に
●國々巡り　●口をあき　●くる〳〵と
●艸がはへ　●苦の娑世

〔や の 部〕

●やぶれた〳〵　●役をさめ　●山から戻り
●やすい事　●大和巡り　●やかましい
●やれ〳〵まあ　●やあ〳〵言ひ　●闇も月夜も
●屋はれて　●山家から　●やれ〳〵嬉しや
●やれうれし　●やどりかさね　●やゝにたゝぬ
●和らかに　●やど取て　●家秘りして
●約束どほり　●やけぢや〳〵

〔ま の 部〕

●まさかの時に　●待兼て　●枕して
●ます〳〵よろし　●幕打て　●真直に
●前をひろげ　●まづ〳〵〳〵　●またしても

●益々と　●またかいな　●未だはやい
●蒔ぬたねは　●まあ〳〵〳〵　●誠がとほり
●待兼て　●蒔ちらし　●待身になれ
●まけた〳〵　●まさかのとき　●負をしみ

〔け の 部〕

●化粧して　●結構ぢや　●けなりがり
●檢査すみ　●今日ぢやつた　●けがらはし
●けれどもなあ　●經唱へ　●稽古して
●今朝見れば　●檢査ぢや〳〵　●毛が長い
●けがの拍子に

〔ふ の 部〕

●ふゐました　●二日も三日も　●福々しい
●船にのり　●綱歩行　●襖しめ
●ふけて見ゐ　●冬の内　●二人連
●船なり汽車なり　●ふりはなし　●深い〳〵
●ふつと眼覺し　●ふとい〳〵　●ふし附けて

●踏たり蹴たり　●筆持て

〔こ の 部〕

●こらへられぬ　●ごめんやす　●憧てる
●子持になり　●今宵のはれ　●肥た〳〵
●戀　●ころ〳〵と　●こりや待た
●子が出來て　●これはしたり　●これ見たか
●これ倖ひ　●戀こがれ　●肥てる笑顔
●これがよい　●古郷を思ひ　●今年から
●こぼれた〳〵

〔に の 部〕〔ゑ の 部〕

●衫數よみ　●ゑにかゝし　●ゑきがあり
●設色た〳〵　●ゑま堂から　●ゑらい事ぢや
●ゑへん〳〵　●ゑり分て　●畫の具買ひ
●ゑと〳〵して　●遠慮仕合　●遠方から
●笑顔隱し　●畫の具とき

〔て の 部〕

●天にまかせ　●手がたちぬ　●天を走り
●手をつかへ　●調子よう　●手がすかぬ
●手に入て　●手柄〳〵　●てきめんに
●手を取て　●寺　●手を入て
●手ぢがへぢや　●手間が入り　●出來がよい
●てんてこ舞　●手透になり　●手を引て

〔あ の 部〕

●安心〳〵　●足のばし　●あちら向き
●秋が來て　●あぶない〳〵　●あかうなり
●あとが大事　●秋ぢやなあ　●あり〳〵と
●赤い〳〵　●雨　●挨拶して
●あなたはまあ　●あけて置く　●雨が降
●あんまりぢや　●あとを思ひ

〔さ の 部〕

●さいならまあ　●さうぢやけれど　●草履ばき
●さめ〳〵と　●掃除して　●さる戸あけ

●嘸やさぞ　●櫛　●淋しがり
●さめた〳〵　●酒は百薬　●三年立
●先ゑらみ　●俳い〳〵　●先か〳〵らい
●さぐり見て　●さうとはしらず　●流石都

〔さ の 部〕

●聞たら徳　●狂氣し　●器用な事
●きぬた打　●忌日忘れず　●氣に入て
●きたながり　●氣味わるう　●肝つぶし
●氣持がよい　●聞た〳〵　●聞づらい
●氣味がよい　●來てから〳〵　●來て居ます
●きいたなあ　●氣味がわるい

〔ゆ の 部〕

●夕部から　●ゆり起し　●ゆるされて
●雪が降　●雪ながめ　●油斷して
●ゆる〳〵と　●讓てる　●ゆめうつゝ
●ゆめを見て

〔め の 部〕

●目出度〳〵　●名僧ぢや　●眼をこすり
●眼をひいて　●めつさうな　●召ます〳〵
●珍らしい　●妙ぢやなあ　●迷惑な
●眼の正月

〔み の 部〕

●見やさんせ　●見にが〳〵れ　●見事なこと
●見ぬふりして　●道を敎へ　●皆がをがみ
●都みやげ　●見るも哀れ　●みんなよし
●身のために　●見合す顏　●見れば見るほど
●見て來た〳〵　●見のがして

〔し の 部〕

●しらぬ顏して　●主がかへり　●十人すき
●主　●仕業自慢　●商賣繁昌
●所望ぢや〳〵　●辛度して　●淸水へより

●辭世　●しようがない　●しつかりと
●師走になり　●深切に　●七面倒な
●充分食て　●知つてぢやか　●眞になり
●しん〳〵と　●支度が出來　●しらして〳〵れ
●しらぐ〳〵と　●時節まち　●しんから好
●しらなんだ　●辛抱して　●仕合せものぢや
●しかたして

〔ひの部〕

●額たれ　●貧乏して　●百になり
●百ばかり　●引ま〳〵り　●日和ほめ
●引張合ひ　●引もきらず　●聖を招き
●人は澤山　●日のめぐみ　●日もよろし
●光輝　●廣い〳〵　●廣うなり
●響てる

〔もの部〕

●物も相談　●もとの所へ
●物に馴れ

●餅がつけ　●もうよいな　●最うよろし
●戻しに來て　●もが〳〵と　●門ン
●儲つて　●もどりにより　●門ひらき

〔せの部〕

●せ〳〵まいぞ　●せかれてる　●赤面して
●せつないこと　●施餓鬼して　●脊伸して
●千にひとつも　●せんぐりに　●世間から
●善に導き　●脊中に負ひ　●脊中から
●せき立られ

〔すの部〕

●すでのこと　●砂まふれ　●する樂しみ
●好ぢや　●すこしづゝ　●煤拂ふて
●すみました　●凄い〳〵　●すつぱりと
●筋がよい　●硯出し　●住なれて
●筋がたち　●すゝめてる　●すつぱり任し

〔京の部〕

●京の人ぢや　●京の自慢

冠吟

〔いの部〕

●祝　公使館にも出る國旗

●同　補ゝまでも養老金

●同　燒物鯨汁若菜

●同　汐ぬれの金子廓で蒔く

●同　佛の座でも神の式

●同　嫌ひも食てる追儺麥

●同　床に拜領の杖かざる

●同　頂て食ふ芋の頭

●同　壽の曠劫〳〵緋の帛紗

●同　歌書〳〵墨を濃くする

●同　鶴の餌箱も芹薺

●同　蘭にも福の名を附る

●同　膳に鶴の羽二枚添ふ

●同　藝者も來てる船かろし

●祝
千年もかたき松の魚
松魚立派に寶船

●同
翌日出す船へ醫妓呼ぶ

●同
有が中にも男の子

●いそがしい
手に持たもの問ふ師走

●同
花に日和のよい鮓屋

●同
箸持間さへ筆を耳

●同
嫗叱つてる蜆汁

●同
束ねる麥に乳がはしる

●同
鰭峨も浮世の麥埃り

●同
日を織つめる師走機

●同
貰た納豆か苞の儘

●同
晝の炬燵は猫ばかり

●同
錢繋ぐ手が店にない

●同
氣にはをがんで親道ふ

●同
綿屋が行かぬ紅葉狩

●同
箸紙をりを老たのひ

●同
旦那迄する尻からげ

●同
居處のない貧乏神

●いそがしい
殊更今は齧時

●同
世帶さかりに子もさかり

●同
天赦日知る目錄屋

●同
孫の爪見て浮雲がる

●同
猫括ッと〜料理人

●同
姉に直さす左ゆへ

●同
門は繩屑なり暮る

●同
宿屋の詫る麥の秋

●同
掛帳で花車の手をはらふ

●同
仕業と冬の日數よむ

●同
繩の塵掃く月明り

●同
刈穂の束に乳がはしる

●同
春を隣の疊さし

●糸引て
牡丹の蜘蛛に下部召す

●同
妻が遲い戸寐ずに待

●同
千里の道もつひ隣

●同
審査が繭のちから見る

●同
押せば明く戸に鈴が鳴る

●同
紐きを見せる關機や

●糸引て　織出す稿の柄譽る
●同　幾萬の紡動いてる
●同　鳥おとしする粟畠
●同　曾我の組畫に雨降らす
●同　御成の鈴が部屋に鳴る
●同　鰻の太トさ考へる
●同　大船繫ぐ女郎蜘蛛
●同　古酒いかにも有ちから
●同　蜘蛛が桔梗を開かさぬ
●同　及物遣はぬ外良賣
●同　出た帆にふらり松の蜘蛛
●同　一並びつゝ瓦ふく
●同　怪談の獨樂火と歩行
●同　人形生てる樣に見せる
●同　口上通りに渡る獨樂
●議　床掛に書千字文
●いろ〳〵と　草花の畫に美しい
●同　熨斗の折樣もある手本
●同　繕ふ嘘も母の慈悲

●いろ〳〵と　産み出してゐる機械職
●同　時世につれる髪かたち
●同　虎も自由に藝附る
●同　一條で艸の名がかはる
●同　ゆふだち凌ぐ冠りもの
●同　裸體畫の論やかましい
●同　糸に意匠の綴織
●同　善へ導引くさとしかた
●同　凡夫へ慈悲の變化佛
●同　種からも蒔く菊造り
●同　未だ十心の鴎評
●同　老堪能さす蠣料理
●同　俳優は寫眞化てとる
●今迄とは　炭の繼樣も世帶向く
●同　普請仕甲斐の客受る
●同　櫛より指環曠になる
●同　豆腐や出來た花の奥
●同　容顔替りのした廓
●今は夢　家根もる月が身の異見

●岩の上　行ゞ中と知る佛の像
●同　扇忘れて來た沙干
●同　折た躑躅の置わすれ
●命ながらへ　孫の勝利を無事で聞
●同　情死一人は墨衣
●同　漂流の地の通辭する
●同　煤と掃かれて居る竈事
●同　薩髮の後は勇見せぬ
●同　法衣でとはる古戰場
●いぢらしい　思案しつきて髮を剃る
●命がけ　荒浪切て行船頭
●同　逆まく浪を切て越す
●同　石蔭に這ふ岩の裏
●同　助け人の方も呑た水
●同　虎口の無事は神の加護
●同　鴿りして岸へつく
●同　藤蔓傳て難所越す
●同　忠臣魁して進む
●同　金鵄頂く譯かたる

●命がけ　戀の證據に入癌
●同　判取てから產す醫者
●同　親も子も越す親不知
●同　水利警吏が助けてる
●同　神の加護得る祈り船
●いらはれて　手垢氣遣ふ白木彫
●同　聲のとぎれる籠の虫
●同　編子へり〳〵と百姓の手
●同　汗の手きらふ小間物屋
●同　地虫にをとる冬の蜂
●同　でん〳〵虫が戸をしめる
●同　居すまひかへる穴狐
●同　墨の手困る人形賣
●同　夢やぶられた花の蝶
●いかめしい　粽の使ひ兜着る
●同　篠掛着ると凄い父
●家の寶　博物館へ出す鎧
●同　魔除一振先祖から
●同　系圖に添ふた名ある劔

●入がよい　嫁の氣巻る重の隅
●同　長う打てる果太鼓
●同　茹鞘豆の自慢する
●同　鮒の卷やう上手かる
●同　切手に受のよい酒屋
●同　八束穂が地にたれて有
●いとしいこと　小町娘と言へと尼
●同　乳母が燒香の手を添る
●因縁ぢや　子數悲しう後家立る
●同　尋た兄も寺にねる
●同　左り供迄皆他人
●同　鼻のある時貰た嫁
●同　巡り逢たる姉も尼
●言ひでしれた　親指出して二本角
●同　色のかはつた乳を見てる
●今は昔　戸毎にかける須磨簾
●同　草鞋のたこも消てわる
●同　手捫嘶しの腰は弓
●同　色も香もない文紙衣

●今は昔　煽て人笑ふ婆々嬢妓
●同　わたしも一度有たはな
●同　三年なれた曲輪出る
●同　鎧兜も參考品
●同　白髪を詫に來た丁稚
●同　苔杖の後は師の紀念
●同　御殿と言ふも田の字
●いま〳〵しい　代言の子が小理屈な
●鼬が啼し　落しにかけた鳩の塒
●同　凶事なかれとの注意する
●一生の德　夫との氣立何よりも
●今そこに　媒人が大戸明に來る
●去で來た　衣服あらため御供する
●いはひして　親が勇んで入營さす
●今頃は　不孝案事りや眼が冴る
●伊勢參り　榮耀普請の氣がやんだ
●同　衝突入はめる器董商
●同　汽車賃拂ふ放し鶏
●同　厄年の無事結構がる

●いたい〳〵　深爪のあと血がにじむ
●いそ〳〵と　藪入が雪苦にしてぬ
●同　葎の中も産れ郷
●同　尾花分け行うまれ郷
●いら〳〵と　花智がぬけさうな
●今をわざ　師走氣見ゐる立噺し
●色がつき　取たと見せてゐる鰻
●いそ〳〵と　乳房嬉しい嫁の母
●いら〳〵と　嬉しさこぼす化粧水
●今に未だ　生鮎賣が腰かけぬ
●同　稀人の知惠世に殘る
●同　子のない伯父の氣が若い
●同　たからはあれと簑と笠
●同　手にはいる豆嚙こなす
●今からすゞ　子供のやうに母の文
●同　身請の客が旅支度
●同　明日と言ふても散安い
●一心に　迫人は茶漬二三ばい
　そしつた人を杖にして

●一心に　辛抱しとげて人になる
●同　木太刀を提て魔所の杉
●同　成らざるはなし勉むべし
●同　末は見返のある生徒
●一層もう　心の丈を左り封
●同　二人の妻もある習ひ
●勢ひよう　答へする子が手をあげる
●同　惡魔を拂ふ繪の工み
●同　夜日の響く豐の秋
●同　起はづみつゝ三ケ日
●いつまでも　乙子は母の乳を撫る
●同　恩を忘れぬ鏡もち
●同　替らぬ親の無事祈る
●祝　箸とらぬ子も膳するゐる
●同　分けてあやかる手打餅
●祝ひいはふて　試む筆に一首詠む
●命をのばし　添へる思案の出た二人
●同　はんに藥は安いもの
●同　菊仙人といはれてる

●命がのびる　名灸よろこんでる中風
●同　胃病わすれる隠居して
●同　隠居も買ふた初茄子
●同　快氣祝ひに施行出す
●いたみ入り　位牌の前で弼異見
●同　をしい相撲を引わける
●居替りて　妹へ月のさす床儿
●田舎　杖の直札が〇五ッ
●同　杖一本が戸のしまり
●同　不自由なやうで物ゆたか
●同　よい紅梅が咲てある
●同　棟上げいはひ竹と縄
●同　醫者の玄關に鍬もある
●同　何處の門にも唐がらし
●同　ちから自慢に寄る若人
●同　艸餅の臼のぞく蝶
●同　巻の子に留主をさしてある
●同　味噌が天井に釣てある
●井戸の中に　はまつた茶碗われてない

●田舎に育　物食のよい若旦那
●同　米踏負す若旦那
●同　入内の妃とは思ひきや
●同　都會に耻ぬ學の德
●同　のんどりとして氣が長い

〔ろ之部〕

●露路を出て　孝子感じて去ぬ探訪
●同　開業のちらし配ッてる
●同　約束通り嫁もらふ
●同　あとへもどらぬ雪轉し
●同　免税鑑札返上する
●同　本家が祝ふ幕國旗
●同　さし詰屏風買ふ祭り
●同　手順を遭ひと本家から
●老人ばかり　逢來のもと千代の友
●勞した功　金鵄勳章の光る胸
●論をやめ　字引見てから笑ひ合ふ
●露路から　惚られた荷が派手に出る

●六十過　俠客の珠數手に馴る
●同　畫像の父に顔が似る
●同　身の罪怖うなる鵜匠
●同　先つ設つた一ひかし
●同　猩々講を子が退かす
●同　伊豫路へ踏で出る遍路
●ろ〳〵に直し　自然をさまる鉢の水
●同　家建る水盛てゐる
●同　男か出たと母が言ふ
●同　ためる白竹油ぬく
●同　名ある鍛ひを見事がる
●同　産婆が身持注意する
●蟷螂立　紋附ならふ金屏風
●同　菊に一割する見榮に
●同　曠の化粧に惣がゝり
●同　寢られぬ蚊帳の穴さがす
●ろ〳〵に聞ず　無雅は鹿より殺酒
●艙を揃へ　畫に書た樣な家形船

〔は之部〕

●春は格別　薬家の梅に御小休
●同　涙の光りも花と散る
●同　何が降ても酒の興
●同　目籠を覗く鶯菜
●同　殊更花の嵯峨御室
●同　何處の二階もさはいでる
●同　花散る鐘は凄うない
●同　心のうぢ〳〵僧ながら
●同　歩行のもまたよい伸氣
●同　山に花あり海に鯛
●同　蹠の客も來る名所
●同　免税藝妓も白い襟
●同　鯛迄のぼる芳野山
●同　どこやら人の氣が長い
●同　遊琴宿やに落る銀子
●同　宮の渉しの賑はしさ
●濱風に　胸毛吹かれて眠る鶴

●濱風に　蝸煮る鍋へ散柳
●同　打水散らす酒し所
●同　崩れては積む蘆の雪
●同　出船の多い朝港
●同　小氣味のわるい柳散る
●同　をとがびはづす笠の紐
●同　不手合が土藏ふき飛ばす
●同　砂にまふれるみそさゞい
●同　吹よせられて啼千鳥
●同　おぎから鶴のたつ二見
●同　石乘せてある海士の家根
●同　荻にもつるゝ釣の糸
●はへた〳〵　舍り樹大事がる別莊
●同　幼男の前齒が愛らしい
●同　乳豆こそばふ齒が障る
●同　苗代の水加減する
●同　思はぬ處へことし竹
●同　埒やした娼妓鬢ぬく
●同　路の蓋見出す庭掃除

●はへた〳〵　初蝶やとす帥ちから
●同　牛は二才と角で知る
●晴ぢや〳〵　囀りの聲の心よい
●同　笛吹音の乾風
●同　日和坊から醉ふ花見
●曇ぢや〳〵　雲の脚よし雉子も啼
●同　揃へ着てたつ初參宮
●同　京へ行日は着惜しまぬ
●同　見合に勳章掛て行
●同　見合の化粧念入れる
●同　母も裲襠こしらへる
●同　附添ふ母の櫛も照る
●同　媒人が車走らさぬ
●同　東京の客に出す鯉
●同　見合はぬ下女もやつしてる
●同　見合に躾とらしてる
●はやい事　汽車に乘たらやむ欠伸
●はじめが大事　我身つゝしむ孕嫁
●同　器械部に遣ふてる

●はじめが大事　宿這入から信用實
●同　老のさし出る種おろし
●同　校長が仕込ひ一年生
●同　筆法きびしう一敎せる
●同　荒牛老が追て出る
●同　抱癖つけなさし向
●はやい事　置て行樣に見る田植
●同　眉毛落して子も一人
●同　京にて今朝の不盡咄す
●同　竹はどに子が延したい
●同　藥ともなる朝參り
●同　老は寐付をけなりがる
●齒の根が合はぬ　あふれて戻る鶴の獨
●同　未だ初戀の切戸口
●はつきりと　寫眞で見ても二皮目
●同　月もくもらぬ鏡山
●はびこりて　古井あぶない亂れ萩
●張こんで　櫛子にさした繻子の帶
●挾で置　旅日記から散る紅葉

●はら〳〵と　桶の輪替に手間が入
●腹實て　青い竿さす納涼舟
●花が咲　婆々を養ふ猿親子
●肌ふれて　夫に忠義の手引する
●同　なければならぬ銀子に寢る
●同　下女の出世の二足飛
●はづんでる　何國も豐の盆踊り
●同　からうすつかされてる若人
●箱に入　折紙のつ〳〵御短尺
●同　大事の娘　京人形
●同　にいやり仕舞手疵皿
●同　別れに張乳絞りこび
●同　重代傳ふ面もある
●同　親が秘藏の瓢のこす
●同　毎日道具よむ大工
●同　煤ぬいた後は寶もの
●同　娘はまゝに奈良人形
●花ざかり　冬見て山と思れぬ
●同　月が瀬の地は香にくもる

●花ざかり　はし物低う干す隣
●針を持　夫と待燈をかき立る
●同　娼妓の際も世の進み
●同　蜂は涅槃の畫にもれる
●羽織着て　握り飯とはもう言へぬ
●同　提ても似合ふはつ松魚
●同　出る日の多い花の頃
●同　出世を見せに來た食客
●同　今日からゆりるたばこ入
●同　數入がもう大人めく
●同　捜して御座る路の壼
●同　一人前の鉋ぐ〻
●濱歩行　櫻貝持手が紅葉
●同　こしみのみしこきるあまは
●はる〳〵と　寄進の榊難所越す
●同　慈愛の文も添ふ學資
●同　禪衣赤うした御判
●同　親の年忌にもどる國
●はんなりと　流石新茶のにほふ色
●はんなりと　垢ぬけのした酌が出る
●同　水際立た薄化粧
●同　皆青花の染る露
●同　顔へ出る酒こゝろよい
●同　嫁の顔にも屠蘇の酔
●同　上坐が座興舞にたつ
●同　藍に艶ある乾やう
●橋わたり　持て去たい夏の風
●同　新酒の酔がどこへやら
●同　粟田祭りは劍のはれ
●同　損な道行く船ぎらひ
●橋　畦に近道つく彼岸
●同　嘘りに渡る此茶碗
●同　在の慈善家名を殘す
●同　最う船錢の入らぬ川
●同　往來へ慈善した彼岸
●同　工兵が敵を驚かす
●同　谷川丈けは釣線路
●同　どちらの村も便利がる

●呪かけて　呪ひしたら嘘りやむ
●花に有　日は高けれど泊る宿
●同　暈酒入れとう思ふ寺
●同　おもはぬ寺で一休み
●同　稲は大事な爰十日
●同　ちらぬ間に急く親心
●同　百姓ながらも宿屋する
●同　田樂はこぶ奥の院
●はづしてる　おちよぼの髷が額はふ
●晴わたり　湖水二十里月の畫
●同　二見の宿がよい都合
●同　産れたやうな今朝の不盡
●同　暮そでくれぬはるの湖
●同　野守のうたを聞く月夜
●同　よい土用暑る秋の空
●同　四方に霞で鶴の聲
●同　青空に急く花行厨
●同　祭り太鼓の音がよい
●同　よい年柄の見る春

●晴わたり　戸をしめをしむ月の畫
●同　葉毎の露に光る星
●同　千里同風の君が春
●同　稲の浪見る心地よさ
●同　涼しい風が蟬に添ふ
●同　案事氣のないこの厄日
●同　雨具預る麓茶屋
●同　花咲朝の氣味がよい
●同　國旗の威光海外へ
●同　準備世話しい御幸沙汰
●同　二見で朝の景はどうも
●同　花見がよかろ芝居より
●同　霞が浦に鶴が舞ふ
●同　月に涼しい洗ひ駒
●同　田舍芝居が太鼓うつ
●同　月も衛もさゑる海
●同　月を研出す鏡山
●同　冴込む月に痩る蟹
●同　百姓よろこぶ秋の門

●晴わたり　眼先に高い雪の山
●同　帆襖立る鴉の湖
●同　田毎に見ゆる月の數
●同　母も手傳ふ機の糊
●同　名月譽ぬ國はない
●同　障子に移る萩すゝき
●同　砧の聲が冴て來る
●同　尾花の月を歌の友
●同　三井の門で富士見てる
●同　隣にも月はめる聲
●流行もの　妾に英吉利卷に結ふ
●同　入齒に目鏡八字髯
●同　乘せてる車夫も卷き貰
●同　幼女さんも被布着てござる
●同　月琴稽古する妾
●同　八人までは時計持
●同　意氣な氣でする金入齒

〔に之部〕

●人德だや　知者は末座へ居ワらさぬ
●同　一生樂して樂往生
●同　顏出しや皆が歸伏する
●同　凡夫のやうに思はれぬ
●同　賢なる心慕はるゝ
●同　像にしてまで尊敬する
●同　信用から出てゐる議員
●同　學ばかりでもない靑雲
●二重三重　松もとりこむ踊の輪
●同　重代の茶器珍重がる
●同　魚鱗に守る御幸船
●同　言合す樣に鯛貰ふ
●同　密書封事て使者ゐらひ
●同　箱に秘置拜領太刀
●同　壺堀のある名城跡
●同　羊羹明ケて少さがる
●庭へ下り　姑が眸見兼てる
●同　鞠は保養の數の內
●同　螢狩する奧女中

●庭へ下り　虫の啼やむ猫の鈴
●同　別家の嫁に御慶受る
●同　失せ針見出す塵の中
●同　冥加に拾ふこぼれ米
●同　夕邊の嫁が氣さんじな
●同　吸付て出る卷たばこ
●同　湯上りに見る藤の花
●同　蝶によどれる幼女の袖
●同　うへより掃た針拾ふ
●同　竹のすゞしい風はめる
●人面獸心　後家が手代の文投る
●似合しい　暑々もどる聞合せ
●同　色に茶好と見る頭巾
●同　伯母が目利の嫁進む
●同　裲襠着せて暑る華奢
●女房の役　悋氣するより始末する
●逃よった　追ふ迄もない敵笑ふ
●握て見て　我年の豆あきれてる
●同　護謨の霞吹撰て買ふ

●握て見て　作事のあたま下女がよむ
●賑合しい　又分家まで賀に並ぶ
●同　汽車おりるなり京譽る
●同　壽も滿足な孫の數
●錦かざり　黒髮山も龍田姫
●錦きて　一世の曠の座にすわる
●にて〳〵と　子が書筆のちから見て
●同　中に丁稚もゐる寫眞
●同　皆おなじ氣な年の朝
●同　朝の笑顔は日の吉事
●同　惚たのぢやない氣違ぢや
●同　乳房へ笑顔すり付る
●同　またとり出して見てる文
●同　嬉しい耳をかしてゐる
●同　尻捻らしてゐる黒齒
●同　瓢の借り人に誘引れる
●同　うるさがられに來る惚人
●同　寫眞に馴てゐる舞妓
●西も東も　開拓の地に御堂が建

●西も東も　主人の恩を知る這出

●同　人の出にける春の旅

●二度の縁　常盤の昔し悟す母

●同　若う造るも涙だ種

●濁らして　居處しらしてる　餡

●同　立行鳥のあと笑ふ

●二三反　茶ばたけのある菴の主

●同　歌入に縞見せてゐる

●にゐた〳〵　松葉の浮た粟の粥

●同　よい土用ぢやと言ふ田主

●錦かざり　から〳〵れなゐの龍田姫

●同　曉なるけふの傘揃

●同　親の年回しに來てる

●同　大闘で來る產れ鄕

●二本出し　太箸どれも揃はして

●同　海陸の旅遣り違ひ

●同　お連にもとて時雨傘

●同　土佐と薩摩の直が違ふ

●憎まれて　鼻黑の猫緣がない

●憎まれて　敵俳優が自慢する

●人氣澤山　顏の違はぬ投票箱

●人見て法　短尺添て出す硯

●西東　更わたる夜半の天の川

●庭をながめ　あかしの風雅さてと知る

●人氣が立　引かした花魁酒量る

●同　縮緬でした幕もある

●握て見て　袂の密柑子がせがむ

●同　牛乳の壜に呑加減

●同　杖間違はぬ積塔會

●同　手をくれ愁傷がる國手

●同　東京手拭自慢する

●同　力士の腕か鐵の筋

●人形抱　子が產ないと節分に

●同　廻らぬ舌で子守うた

●同　石女が寫眞うつしてる

●逃て廻り　勝利得た身の名が高い

●同　とうと繫だ怖い牛

●同　孫の儘にはならぬ鷄

●逃て廻り　御經聞とはしらぬ魚
●同　四ッ手の鯰握られぬ
●同　手取相撲はおもしろい
●同　倒れた家へもどる牛
●同　手柄する身の謀計

〔ほ之部〕

●はのぐと　見ねつ隠れつ霧の船
●同　今朝はのどかな花の鐘
●盃へわげ　見事な粽禮のべる
●細長う　土地の妙ある吉野杉
●譽て貰ひ　藥皆のむ母の膝
●はつ〳〵と　占領した地も日本語
●同　丸子捻てゐる隱居
●同　老が冥加に門田うつ
●同　放解ものから針の道
●同　積た寶はつひ減らぬ
●同　孫に儲けた咄しする
●同　柳ばかりにした鼠

●はつ〳〵と　走り穂の出る樋の小口
●同　燒餅かじる雪の旅
●同　口下手に似ぬ咄し好
●同　鶯子啼を聞く冬至過
●同　一僕つれて花めぐり
●同　脇見せぬやう阪のぼる
●同　上戸の傍で飯食てる
●同　鎌賣に出る秋彼岸
●同　蔭田降雨に啼水鷄
●同　梅から春の旅はじめ
●はのかに聞　島に大赦の沙汰を待
●同　人里らしい鷄の聲
●同　姿は何處に呼子鳥
●同　放蕩案じる言號
●同　忠義はめてる嬉しい母
●同　苦勞助けに來る義弟
●同　機笛に急ぐ二人曳
●同　子が斧音へ行厨持
●同　尼でゐるとの別れ妻

●はのかに聞　兵士の妻が功名笑む
●同　縫物連が煽てる
●同　恪氣にじつとしてられぬ
●凡夫の知恵　錢入れて遣る死出の旅
●同　地獄の有無を論じあふ
●同　寳頭盧の口なでる唖
●同　最一ッ奥が悟られぬ
●惚こんで　命がけでも添たがる
●同　蛭子の軸に貸す質屋
●はれた〳〵　食客に置て器量見る
●奉公して　嬉しや人にして貰た
●本家から　出養生せよと別莊貸す
●同　嫁もさし圖の宿這入
●同　不盡越し龍の額貰ふ
●同　味噌豆祝ひとの使ひ
●同　雜用帳見せよとの使ひ
●同　宿坊の有志差圖する
●星明り　聲に見透かす時鳥
●同　嫁が青花摘に出る

●譽て貰ひ　作文持て學校去ぬ
●譽られて　行儀直して子が居ワる
●譽返し　客もなか〳〵普請好
●本意ない事　ちから負して土俵下りる
●同　ぼひんがぼんといふたのみ
●同　顏見たばかり船わかれ
●細い〳〵　こんな穴から鮴めが
●施して　家に富貴の花が咲
●はしけりややる　捨子拾ふて思案顏
●同　柿の木のぼる守り呵る
●同　ならした瓢を生がたみ
●同　聖りの眼には土の猫
●同　銀の猫でもない子猫
●干てゐる　樟腦のにほふ青あらし
●同　染糸にほふ桃の枝
●同　飴粕へ來る雀の子
●同　蜻蛉のたつた丹の裏
●同　萬年の澁を岩の龜
●同　鴨川染を加茂川原

●同　借て來た傘叮嚀に
●同　樟腦のにほふ土用東風
●骨身にこたへ　不孝詫てる雪の軒
●同　打たれた如意に進む學
●同　ありがたうよむ慈悲の文
●細々に　女氣かたう棟守る
●同　子寶持て世を稼ぐ
●はどよしぢや　輕い茶代が置にくい
●同　宿引に笠とられてる
●はつとして　花嫁の出す菓子だんす
●同　隱居から孫かりに來る
●骨折て　南瓜に肥を嫣が遣る
●同　組立た社が進歩する
●同　鴉の緣も鴛鴦にする
●同　菊には健な保養鍬
●同　後家でも牛を痩さゝぬ
●同　不毛の土にして置かぬ
●同　世話した丈は見返る秋
●はつたらかし　雪に異見をさすがよい

●はつたらかし　信ありや屆く流し樽
●同　大根畠に蝶が舞ふ
●同　隱居見舞が菊をしむ
●同　背競になる元と利子
●同　梅をれかしの軒の臼
●同　空家の裏の菊が這ふ
●同　莚より賤の子がそだつ
●本出して　いかめしさうにする易者
●同　紋に念押す悉皆や
●同　智識與ふる圖書館
●同　聖賢の道讀進む
●佛　遊漁が鮓逃してる
●同　嫁も孝ならよい祖母ぢや

〔へ之部〕

●返事して　下は引ばる窓のひも
●同　冷きびしさに起まどる
●同　嫁はゞかしい昨日今日
●同　爰とこたへる雪隱から

●返事して　向ひ谷にも斧仕舞
●同　呼ばぬ丁稚が夢さます
●偏屈もの　田葉粉も他宗の火で呑ぬ
●同　粥すゝつても子は食はぬ
●紅附て　嫁はづかしい昨日今日
●同　婆々藝妓ぢやで注連の内
●同　髪の結たて見違へる
●同　ふちよぼめつきり色氣つく
●へい〳〵言ひ　なか〳〵丁稚店馴て
●同　しかられぶりのよい丁稚
●變な事　嘶く駒がわとしざり
●同　僧やどる夢見て孕む
●同　實母在と夢に見る
●同　筑紫の沖に火が見える
●へばりつき　庭の落葉に寒け知る
●同　草鞋は脱だ儘凍る
●同　磐沙のもどる五月雨
●同　名紙が二枚置てある
●同　供へる餅は十二月
●臍よらし　昔嘶しを若うする
●同　天の岩戸のをどり見て
●同　煤掃の顔笑ひ合ふ
●別條なし　目出度腹を撫る醫師
●へつこんで　高塀に除てある鬼門
●同　美人に愛の消す靨
●同　山鳴りの跡理學論

〔と之部〕

●滑なう　圖面だふりに建わがる
●同　とり盃に諷ふ鶏
●同　施主の禮受る塔大工
●同　今年も無事の札納
●同　軍器芽出度元の庫
●同　貢納めて春心地
●同　笑顔して掃く除夜の門
●同　家賃の通ひ美しい
●十ヲが十　これでちよつきり百圓ぢや
●同　瓢並べると形違ふ

●戸を明る　花にもの言ふ夜の寂
●年を隠し　相性合してゐる娼妓
●時を待　利が見ゐる迄土藏に積
●處かはれば　都鳥とも名を呼ばれ
●取て投　乳母が持さぬ蛇いちご
●年を問はれ　人魚食た樣に言はれてる
●途方にくれ　迷ふ山路で雪が降
●同　義理と〳〵と中にたつ
●同　讀かけた弥下に置
●戸をたゝき　また赤鷄かと母の慈悲
●同　椿の落た庵の庭
●とりまぎれ　始末したもの捜してる
●とん〳〵拍子　舞子が濱の涙蔵
●飛で出て　干物入れる夏の雨
●とりかはす　戀のいろはとなる指環
●頓智よう　一首できげんとり直す
●どうなりと　代筆さゝぬ性名だけ
●どや〳〵と　生徒幾群れ瀉車下りる
●同　宿引が講大きがる

●取て投　こらしめて置生兵法
●同　さも澁柿を憎さうに
●同　伸た膚さの二番艸
●同　月に遊べと燈とり虫
●同　弟とは下たで柿受る
●取勝ちや　御旅へつくとない榊
●ところ〳〵　指さしのある順禮道
●同　水番の火が田に見ゐる
●同　大和の國は多い御陵
●供が四五人　野道淋しう葬に行
●同　さも強さうな角力取
●飛退て　蹈もとした猫しかつてる
●年を隠し　口入屋では若い妾
●同　食客が見せぬ豆の數
●所から　石ク持紋の初しきせ
●同　所得掛りが町はめる
●同　貸家でさへも土藏附ぢや
●同　大根一本通ひ附け
●友がより　互に無事を語り合ふ

●友がより　一體刻む雪達磨
●同　日曜〳〵に讀書會
●同　互に學をして進む
●同　參宮はなしのさまる春
●同　丁年待て體の論
●同　無事の歸朝を目出度がる
●同　斷しの果ぬ春の夜半
●とれた〳〵　笑顔で秋の俵數
●同　能書嘘でない瘋
●同　松茸持てをどつてる
●同　思ひの外の俵數
●同　鏡見て笑ひ泣瘋
●同　新糯を搗〳〵秋祭り
●迎もまあ　正鵠姉の手にわはぬ
●同　資本を聞て競爭せぬ
●同　雪解見てる旅の客
●同　老母を泊める雪の道
●同　ぞめかれる氣で舞臺踏
●同　高點辭退する村長
●迎もまあ　瀬戸は六合の帆で走る
●同　雪がとめてる久しぶり
●俱々に　添ふた甲斐のある稼
●同　聲かけて行霜の中
●同　子のない内に稼ぎ合ふ
●同　夫婦が稼はめられる
●同　稼に惚た嫁らしい

〔ち之部〕

●ち〳〵登り　眼當の松が後になる
●同　次第に法螺の音が霞む
●同　草臥もせぬ梅の道
●同　雲の中なる花の山
●同　醫師首ひねる體温器
●同　雪の沙汰消す寒暖計
●ちり〳〵ばら〳〵　水雷はめる試し船
●同　群がる蟻に一雫
●ちら〳〵と　新米積た帆が見える
●同　雪も消めの神迎ひ

●ちら〳〵と　酒の通ひで雪拂ふ
●近寄るな　爰等が蟲の聞處
●同　最う一こぢで落る石
●塵も山　他力で建たあんな堂か
●直接に　日本語遣て買に來る
●一寸見て　耻かしい傘かたむける
●同　母は悪阻と言當る
●同　宿引が國さしてゐる
●ちから入レ　手際見せ合ふ茶の焙爐
●違ひ通し　合算一人り邪魔になる
●ちよろ〳〵と　乳母は眼はなしもの出來ぬ
●同　こんな小川にゐる鰻
●違ひない　鳥居見て來た早魃年
●ちら〳〵と　小鮎の登る花の雨
●地震に會ひ　先祖の藪を拜んでる
●ちりまぶれ　下木の雜魚に手間が入る
●同　燒松茸の香が高い
●同　港に多きこぼれ米
●ちんまりと　色どりのよい重さかな

●ちんまりと　袴たゞんで下女譽る
●同　朝は圍扇が隅にある
●同　後家らしい髮結てゐる
●同　荒物ながら妾の店
●同　嫁の棚もと行屆く
●同　子のない家は涼しそな
●同　上手な鑿は羽根すげる
●同　柳まるめて來た花屋
●同　日も片づく秋仕舞
●知惠絞り　月の世界を見屆ける
●近いなあ　いたつて大かい眼ぢやけれど
●塵拂て　仕上げを見せる瓦家根
●同　身受せられた竹婦人
●ちら〳〵と　赤い裾除情がある
●馳走になり　牡丹見に來て痛み入
●ちんとすはり　行義を父に見て貰ふ
●同　兄とならんで諾ひぞめ
●同　泣ずにあたま子が剃らす
●同　頂く箸は父と母

●ちんとすはり
●同　鏡に向ふ髪の出來
●同　頂てゐる猿が錢
●同　乳母も座につく雛の膳
●同　起上りこぼし子が譽る
●同　聟柄見せる瞋座敷
●同　幼男抱たふり寫眞とる
●同　追手に成て樂な船
●同　常に行義な座の譽れ
●同　嫁は障子を明るにも
●同　此凱筆は御氣に入
●同　惠方に向て筆初
●同　子が譽られて膳の前
●同　お宜の手に遣る土産
●同　月の筵に袴客
●同　嫁の上座は此座ぎり
●同　歸命無量に孫がつく
●同　氣心のよい青疊
●同　幣に恐れる狸つき
●同　扇子封きる年の朝

●ちんとすはり
●同　蜂の鳴程うなる獨樂
●同　お伊勢下向が上座する
●同　家柄とする子の行義
●同　說教おとなし祖母と聞く
●ちから一ぱい　爺に過たる大根の荷
●同　保險會社で呼吸ふく
●血に染り　三寶洗てる道具方
●同　紀念にのこす敵の旗
●同　保存して置手柄服
●同　針して戻る牛の鞋
●父も母も　御無事ならべる生身魂

〔り之部〕

●理があり〳〵　末座の論を取あげる
●同　敵城の松伐るしるし
●恪氣して　夫での美男が痩る種
●同　奇麗な顏にある凄み
●同　移り香の譯たいす嫁
●同　夫トの櫨に涙〳〵む

●恪氣して　何にも言はず痩る嫁
●同　嫁は狂氣をせんばかり
●同　凄い姿の夢を見る
●同　我不容顔に氣が廻る
●同　逢にやたまらぬ噂聞〳〵
●同　あつたら容貌鬼になり
●同　やつして見たりやつれたり
●同　立聞が帶しめ直す
●同　言ひもせいでか泣かいでか
●同　道ふ子に中を直される
●同　鬼にもならず尼になる
●同　やつしの下女が氣に入らぬ
●理屈づめ　掛取下手なかしこがり
●同　狸を退かす辯護人
●臨時御用　茶蕎麥打てる年のくれ
●りきんでる　黒持されて打直す
●立派〳〵　還暦の座をまばゆがる
●理屈ばかり　母は弟がほん嫌ひ

〔ぬ之部〕

●濡たまゝ　田植が張乳呑してる
●同　かたづけた傘しかられる
●同　開業の幟間似合す
●同　盃うける鯉掴み
●同　送り人に傘ことづける
●同　ことわりながら傘かへす
●同　煮冷し盆にのせて出す
●同　一人して持畚目錄
●同　皆踊つてる祈り雨
●同　使へ詫て出す紺屋
●拔ました　蛇の目の氷提て來る
●同　ソゲの禮言ふ煤牛
●ぬり直し　鼈士に松の影がさす
●同　うるし負した祭り獅子
●ぬけめがない　斥候が死骸蹴て見る
●同　會社支配にゑらまれる
●同　才智な嫁の人遣ひ

●ぬれました　椀持て來る年の暮
●同　寵土を見ると春心地
●同　矢箱へかける肌襦袢
●ぬくもりて　雪へ鷄卵の殼捨る
●同　最う絹針もつまゝれる
●糠に釘　諫言の書も妾と讀む
●同　遣りたい金子の日和見る
●同　按摩を笑ふ相撲取
●同　意見百萬陀羅尼經
●同　禁酒なんべん若旦那
●ぬしがあり　勤め賣ても身は賣らぬ
●ぬつと出て　捨子の顔をてらす月
●同　客の氣冷す心太
●同　世の廣さ知る井の蛙
●ぬし　左りまくらの闇の癖
●同　七五三張て置く池の龍
●濡手で粟　立派に普請する米屋
●同　濱で手の合ふ運盛り
●ぬくみがあり　懐の綿操り樣がる
●ぬくみが有　寵土へたかる冬の蠅

〔る之部〕

●留主預り　一くべ焚て待隣
●留主遣ひ　逢たい親がため思ふ
●流勞して　不自由が恩の知りはじめ
●同　老僧の足にたこがある
●留主でも内でも　心安さの梅もらひ
●同　戸にしまりせぬ四國の地
●留主番がてら　隱居の障子張る食客
●類がない　楪の木々の生へる山
●同　傘のしるしに牛二疋
●同　家傳の灸は德に利く
●同　顔に入瘡してる國

〔を之部〕

●をゝ見事　出船入船帆をつらね
●同　旱魃の年は青田から
●をゝこわや　寢所で針拾ふ乳母

●をゝこわや　小笹つかんで辷り阪
●をしい〳〵　四悪でなけりや出來る縁
●同　あつたら瓢にある蒔繪
●笈摺着て　かはる姿にむせる乳母
●同　島の便船呼もどす
●をかしい事　狂歌に留主がさしてある
●同　這出ふしぎな竹婦人
●同　雪の達磨に笠させて
●遲い〳〵　鐘は待夜の氣に呀る
●拜でる　叩かれながら慈悲慕ふ
●同　金貫ふ樣な稻の雨
●者さして　締てる帶の直打知る
●同　師匠が調べ締直す
●同　泣子に持す振り鮫
●同　涼しさのます水細工
●同　銀貨受とる夕間ぐれ
●をしまれて　名ある筆ぢやか書おろし
●同　翠簾おろしても塲がうなる
●同　剃る日ののびる花の眉

●男　少しは酒も呑むがよい
●男づ〳〵　あとへはよらぬ身請金子
●女の聲で　瀧に夜な〳〵普門品
●同　瀧に震へる普門品
●同　白取派手に調子よう
●同　切戸を叩く〳〵そ狸
●同　馬奴歌をかし千葉街道
●同　電話遠隔よう通す
●思ふ通り　佛師も出來た彌陀拜む
●思ひ〳〵　出家望みのある次男
●押へつけ　近所の格氣あやまらず
●同　桝堪納さす唐辛子
●面白い　搗入のふるる施行餅
●ふなじ事を　上手にいふと角どたゝぬ
●親があり　戀にすげない返事書く
●思ひがけない　札所で姉に逢ふ順禮
●同　末座から出た知惠をかる
●同　雪解日和にとまる川
●同　食客迎ひに馬で來る

●思ひがけない　貸蒲團屋の戸を叩く
●同　拵へ取になる孝女
●同　馬車から我の名を呼れ
●同　幼稚時の名で呼れ
●同　泣辟二つする産家
●同　柄杓ひかへる時鳥
●同　金瓶かせと本家から
●同　出た日吊ふ子が戻り
●同　馬車にかどろく牡丹主
●同　親子出逢た海嘯あと
●恩を知り　不思儀な繁昌さす狐
●同　千年忌にも鶴が來る
●同　殊更はげむ禮拳公
●同　親は錦と見る仕着施
●同　出世するほど主思ふ
●同　ある夜白狐の枕神
●同　見わすれぬ犬杖まとふ
●同　飼主の門ど守る犬
●追々繁花　山の裾まで地價がます

●追々繁花　銀子と土との量分
●同　營所も出來て汽車もつく
●同　曲輪のゆりる新港
●同　曲輪の出來る殖民地
●ふなぐさみに　御旅館が出す美術品
●思ひ出し　亡き人に泣く土用ぼし
●同　寫眞に涙だこぼす後家
●同　若氣はづかし文紙衣
●同　紀念の袖に入みつける
●同　姉が相手の口で彈
●同　精進してる旅ながら
●同　亡きとゝさんと問ふ末子
●奢り好　大内の眞似けしからん
●同　伯父が榮耀の瀧呵る
●奢らぬやう　大黒の軸かける伯父
●同　わづかな銀子で樂してる
●同　母が暖簾綴てる
●同　年始の式にない珍味
●同　麥を祝ひに宿這入

●重たい〳〵　守りの居付ぬ角力の子
●同　よた〳〵歩行武者の列
●同　休む氣の合ふさし擔ひ
●同　おない年でも男の子
●奥から口迄　肩ではこんだ炭人夫
●同　雪に追はれて鹿が出る
●押へつけ　それでも達摩起あがる
●鬼　邪見な人の胸に住
●大勢が寄　波ふせいでる閼の鄙
●同　祝ふて洗ふ酒袋
●同　逃牛のあと追かける
●同　手に物いはす米市場
●同　達磨轉がす雪の朝
●同　一斗樽のある花見
●同　小村と見ぬ酒迎ひ
●同　百人一首の縫いそぐ
●同　狸一疋食て仕舞
●思ひ〳〵　菊見が譽た歌殘す
●同　意匠の遊ふ勅題畫

●ふたのしみ　本望遂た新世帶
●教へと〳〵　母の名も出る針仕業
●同　能ウの師も取る俳優の子
●同　手ほどき丈は内稽古
●折がよい　火熨斗の當る針の音
●同　往も戻りも帆が孕む
●同　飯買た年魚島で
●同　笑顔で二人小酒盛
●同　伊勢路の旅に雨しらず
●同　勞れた足に去に車
●同　軍艦見てる旅果報
●同　五月に稀な不盡見てる
●同　味噌豆祝ふ七里來て
●同　めつたに聞けぬ御座に逢ふ
●同　珍客へ解く柱鮓
●同　近江道者と不盡詣
●同　未だ雨しらぬ出た日から
●同　逢たい人に花で逢ふ
●男伊達　細い腕にも龍畫かく

●男伊達　手者の食客が置てのる
●同　命捨ても義を捨ぬ
●面白う　くたぶれもせず盆をどり
●落してる　けふから顔も嫁になる
●同　最う用のない水の音
●親ぢやもの　間似合ひでも居てはしい
●大きてこまる　山で小さう思ふ樹も
●おだやかに　をさまる嘘は罪でない
●同　水は器の捌きかた
●同　我誤りにしてる嫁

〔わ之部〕

●われた〳〵　戴出てをしひ象牙筒
●同　雛の聲聞〳〵かへり卵
●同　花瓶に凍の强さしる
●綿買て　大きな不盡の造りもの
●藁打ば　隣の畫師が筆洗ふ
●藁打て　松から落た蟬の殼
●同　ちからだめしの石咄し

●藁打て　雨の降日も冥加知る
●私ぢやてゝ　殼の簞笥は持て來ぬ
●若うても　流石仲居ぢや座がもてる
●若いけれども　やつぱり寒い夜は寒い
●同　洋行もとりの醫師はやる
●同　餅搗に口あける莖
●同　時の流行の伊達入歯
●同　後家の身持が譽れもの
●笑はれな　生る錢なら出さす伯父
●笑ひな〳〵　はんの私しの覺ゑ書
●同　裸本眞の貞女もの
●同　破れ衣ちやけど聖
●同　寫眞で見ると出歯になる
●同　大智は侗に似てるげな
●笑ふな〳〵　ありや堪忍の强い人
●同　若い白髮は福ぢやげな
●同　無い片足も國のため
●同　逃した方がふかい智惠
●笑はれて　親が手ばなしや賢になる

●わきまへて　碁の御相人になる花魁
●同　何ンにもしらぬ顔で居る
●若い間だ　献立書にのる茄子
●同　おなじ機でも艶がある
●笑ひが出た　縁の返事を母の袖
●わかります　日本人と咄しする
●同　釘の折れでも國の文字
●わかりませぬ　姑メさまの初氣どり
●同　可愛さの味ヂ石女では
●わたります　人數と饅頭算へてる
●若うつくり　本眞の年をいはぬ後家
●同　狂ふ夫の氣を探る
●同　二度の夫の氣どりする
●同　一ッは德ぢや小柄妻
●同　貰たらひとつ貧女房
●同　眉毛殘しに行寫眞
●同　眉毛は花街の飾もの
●若い時分は　是見てくれと寫眞出す
●同　働らけ禁酒する手間で

●若ひ時分は　よう笑ふたと怖い婆々
●和合して　嫁のわやまち隱す祖母
●同　おなじ流の水をのひ
●同　働いて居りや世は氣樂
●同　稼ぎや榮える富の基
●同　愛國心が國肥す
●同　榮える家の睦じさ
●同　稼ぎや田もふえ畑もふえ
●同　配當の多い店おろし
●同　論はもうない隣り村
●同　十二師團が國のはな
●同　稼ぐ家内の氣樂しひ
●同　びくつともせぬ國の楯
●同　軍器も今は蜘蛛の宿
●同　拳公人までほめられる
●同　其日長者で暮してる
●同　證據にこんなよい子産ひ
●我一と　寄附人足が棟木曳
●同　畵工の競ふ圖案會

●我一と　市場かけ出すはつ鰹
●同　川越す馬に鞭當る
●同　朝參りする己成金
●同　電除に取る名越の矢
●同　店先かざるとしの市
●譯聞て　慈悲が宿かす子の順禮
●同　住居して見りや何も出ぬ
●同　尤ぢやけど雉子と鷹
●同　旅立通るもでり橋

〔か之部〕

●垣が出來　釣りをゆるさぬ神の池
●同　一しほ戀が增して來る
●かげんして　碁になるやうに打つて居る
●同　嫌はれぬ樣に避んでる
●學文して　折には明ける梅の窓
●歌道から　名所になつた土地のとく
●同　身のをこなひが正しうなる
●同　いつかやんだる短氣もの

●歌道から　未だ見ぬ人の氣も知れる
●同　教育になる德を知る
●學の德　智惠の袋が大きなる
●金にもあり　在所で目立門構へ
●限りなう　老行身にも飽ぬ春
●神に顯ひ　醫藥にちから足す孝子
●嚙付られ　別家で朝の飲食てる
●隱しても　孝のつかれを不憫かる
●同　慈悲な言葉に親と知る
●かみわけて　伯母が小姑かたづける
●からくと　數入らしい日和下駄
●同　鳴子の加減引て見る
●かしこいやつ　小間物賣が髮はめる
●同　譽に又來る柿の下
●同　苦薩の變化かる小僧
●かぶり附　西瓜味合ふ晝寢起
●上にも下にも　御勅使の立加茂まつり
●同　御手洗賣てある茶店
●感心ぢや　身の正直が出世だね

●感心ぢや　米屋に借りのない貧者
●肝心ぢや　御針子が裙はめられる
●同　筋目正してからもらふ
●同　眼彫日は油斷せぬ
●同　相槌うたす念入れる
●同　軍醫が水の試驗する
●同　佛師が眼念入れる
●同　聞合すにも筋目から
●同　酒がなうては只櫻
●風一荷　兩挾箱で醫者通ひ
●同　売籠重い橋のうへ
●鴨もらひ　巨椋堤の寒さ閒〳〵
●同　思ひがけない年忘れ
●神さん願ひ　親に足したい我命
●同　酢のもの好む夢の後
●同　梅斷てまで筆の道
●同　嫁が待たれた世嗣産ひ
●同　翌日の角力に婿が寢ぬ
●紙もんで　花魁が關の炙拭ふ

●髪結て　三日も遊ぶ雨いはひ
●堪忍して　大望ある身はあらそはぬ
●同　嘘もその場の理に任す
●同　いつも笑ふて仕舞老
●覺悟して　小栗栖の供する丁稚
●同　船長がさらす碇綱
●かさ廻し　嫁がかひ餅焚上手
●風がやみ　もつれのとけた糸柳
●同　柳はなにか物たらぬ
●同　ちんとも言はぬ軒のりん
●可愛さうに　捨子の聲が泣かれる
●同　蔵賣となる小百姓
●同　あまへる親のない子供
●同　眼は明ながら眼が見ねず
●同　大雪に鳴く夜の鳥
●同　賣られた身より賣た親
●同　なんでこの子を尼にする
●同　樋子の薄着見てられぬ
●同　親貢ぐ身は胼だらけ

●可愛さうに　一日巷はそりや無理ぢや
●同　あの後家どのゝやつれ機
●同　早う仕舞へよ牛ぢやかて
●同　孤獨が日々に慈悲を泣く
●同　分て病みたい幾思ひ
●同　實母は傍に有なから
●同　媒人が元の母にする
●同　眼をあけてやる親がない
●同　蹠車が雪の道
●同　雲の捨子に外套ぬぐ
●同　里近う啼飢狐
●同　德が見ゐても牛替ぬ
●同　花見の席で泣盲人
●同　伯父が日陰にして置ぬ
●同　腹から父の顏知らぬ
●同　勞れいたはる孕み牛
●同　しらぬ妻子にかゝる責メ
●同　順禮招て藁もゐす
●同　花の盛りを後家で居る

●可愛さうに　僧正の眼には犬の相
●同　櫃子か一人寝う寢る
●感心〳〵　慈善家の名も有長者
●同　佛事は始末してぬ後家
●同　佛師が彫を見詰てる
●同　花のいきてる師の鋏
●隱れ忍び　手鍋の世帶覗〳〵母
●同　却て戀の情が深い
●同　御預へ來る言號

〔よ之部〕

●世がようて　穗にはかさがる穗がさがる
●同　鳳凰の出し出たをとり
●慾はなれ　名譽の筆のふるふ畫工
●同　惜まれる智者庵へ退く
●同　壽を延すよりない望
●同　行屆てる寺の世話
●同　歌にも艶のない庵主
●餘所ながら　皆あやからす手打餅

●餘所ながら　孝手女本に見習ず
●慾は否　みんな世界の借物ぢや
●嫁となり　好てた帶を派手がる
●同　胖も嬉しう世帶入む
●豫算持　秋とり入の俵あむ
●よかろ〳〵　そこらへ敷けよ花莚
●同　二人車にゆられてりや
●嫁が出て　月のない方へ置く床几
●同　座敷賑はふ雛の酒
●嫁が來て　姑メ樂が退屈な
●横からぢや　淀の水押す出水川
●同　細う涼風來る坐敷
●夜もすがら　瀆の賑はふ祭り市
●同　泣されるとも憂はらし
●同　橋に聲ある夏の月
●同　狼の聲聞〳〵座禪
●同　詠歌の絶ゑぬ籠り堂
●同　滝へ流るゝ經の聲
●同　珍客のある虫の宿

●呼とめて　子守りの帶を締て遣る
●よそ〳〵しい　麥で育た子がもどる
●横になり　眼鏡はづして傍に置く
●同　接木ながめて扨嘶し
●宵から朝迄　勉强娼妓に責られる
●同　何にもしらぬ旅づかれ
●同　やうまあ酒も呑めるもの
●同　甘いもの食ふ果報もの
●世が世なら　知らぬ冥加も今は知る
●同　あきらめた身もをりに恐縮
●よろこんで　子のとりまいた旅戻り
●同　稼好さへ雨やすみ
●よしあしぢや　結構過る拳公先
●同　日覆かけると風が來ぬ
●よい時ぢや　嫁の產のは花の頃
●同　稻荷祭りは安い鯛
●夜の眼もあはぬ　長途の夫さの便りだに
●同　追人の電報母が待
●夜を待　水鷄の宿は歌の客

●夜を待　化粧してゐるてらし女郎
●同　三寶に祭る芋團子
●同　仕上た切籠釣あげる
●同　箒りの支度する鵜舟
●同　好が來るとのあぶり出し
●同　派手に漕出す花火舟
●よい事して　短命の相が消てある
●同　早う持した嫁で樂
●慾がない　あまりし錢は貧へ蒔く
●同　世から佛の名に交る
●同　其日の糊口さへ凌ぎや

〔た之部〕

●互にきばり　相嫁か孝つくしてる
●同　末たのしみの德をつむ
●同　出世誓ふた兄弟
●同　添た甲斐ある新世帶
●同　三十日を笑て越す夫婦
●谷で迷ひ　稻荷の山はあなどれぬ

●谷で迷ひ　連が呼聲谺する
●同　遠音の瀧に耳すます
●同　炭燒に問ふ順禮道
●同　ちからを得たる斧の音
●斷てゐる　酒は不孝を詫るため
●立てゐる　去られたる門に夜るの鶴
●太鼓打　勝負のわかる競馬
●旅は道連　退屈もせず草臥れず
●瀧にうたれ　靈場へのぼる身を雪く
●竹植て　机の置場向かへる
●たいていなら　二親のある嫁捜す
●たしなんで　笑ひも低う本家の忌
●同　逃る手の術たしかかる
●賴甲斐あり　帶に結ぶの神の風
●高い〳〵　この古茶碗鑑定から
●竹持て　田樂舞の古事咄す
●同　歌のとはりに猿が舞
●便になり　國では知らぬ人ながら
●退屈な　留主番が見る花暦

●退屈な　針を持氣の出た妾
●同　煙管をみがく奴質
●同　運動がてら庭さうじ
●同　貰ひ欠伸に笑ひ合ふ
●同　又雜巾持妾の下女
●同　汽車で革盤の書物出す
●たゞでもいや　河豚尻むけて戻つてる
●同　連と別れる船嫌ひ
●同　年に似合ぬ縞の柄
●同　男に入らぬ糸卷は
●同　花魁は鍬をよう持たぬ
●同　かねで有てもブリキ屑
●同　酒と餅との論がひぬ
●立ならび　葬の立派な朱傘
●同　姫君目だつ羽子遊び
●たわいもない　伯父が佛檀賣さゝぬ
●鯛奢り　ほた〳〵儲咄しする
●同　富士咄さずに夢祝ひ
●同　丸で祭りと呵る伯父

●だん〳〵と　我身の振が見ゐて來る
●同　陽氣の見ゐる梅柳
●同　針のいろはは糠袋
●同　這ふ子の知惠がおもしろい
●同　美人程なは目立皺
●誰にでも　美しい花眼にとまる
●同　書面はわかるやうに書け
●同　談やすい書が意味深い
●同　正札の方が買ひよがる
●同　問へばをしへる師の器量
●誰にでも　人受のよい物いはず
●たしなみがよい　佛畫書く時筆なめぬ
●達者〻〻　樂する慾が親にない
●同　いつでも冒い麥の飯
●同　進める杖が邪魔になる
●同　口は一寸も年寄らぬ
●玉のやうな　角力取りの汗大きがる
●同　剃た天窓を撫られる
●同　嫁の御容貌譽られる

●立ても居ても　かたい疊の初奉公
●出すもの出し　内も貰ふて嵩低な
●同　ぬるかつた茶を誤らす
●立寄て　思はずくれる花の本
●同　落首高々謳かへす
●同　琴の果待つ菴の外
●同　今日も德得る集書院
●同　戻る氣の出ぬ鷄卵酒
●同　清水に寫る旅ゝかれ
●同　花から花の無沙汰訪ふ
●逢者で在す　胸一ぱいの母に逢ふ
●便になり　後家が欺きを子に忘れ
●同　血をわけたれば女でも

〔れ之部〕

●禮義正しう　隣同士も名刺置
●例はかゝさぬ　禮者が醉氣羽織ぬぐ
●同　本家の煤に蕎麥が出る
●戀慕して　他から見てると狐附

●例にして　おてら巻りに茶筌買ふ
●例になり　庭の櫻に客招く
●煉瓦造り　店の符帳が皆英語
●同　殊更目立草の奥
●同　市中各所に目立てる
●同　ぺんで書字の番號札
●同　煙筒が雲にそびへてる

〔そ之部〕

●袖振て　魚市の中とはる尼
●同　色狂氣が追かける
●同　舞妓がこぼす萩の露
●そないまあ　惜しひ酒ではないけれど
●それからそれへ　雀の潜る竹の枝
●添とげて　互に苦勞語り合ふ
●底叩き　追々殖す棚田持
●そろ〳〵と　教の道をせかず踏
●同　鴈の來た日を鍬はじめ
●同　湯治場寂る鴈の聲

●そろ〳〵と　七〳〵さ踏す馬上手
●同　老の持病も治る春
●同　妹も尻を撫出した
●同　流石能ウ果群集する
●同　もう初花に人が出る
●同　乳母と引てる花車
●それ見たか　廓の狐に欺される
●同　親がしり餅提て去ぬ
●同　とうと菊石の嫣つかむ
●同　親の教に無理がない
●同　世帯にをしい遣た金子
●同　茶碗積なと言ふ事を
●同　人は笑へぬ運は別
●同　老の撰た種がよい
●同　伊達の薄着がくさめする
●そつちもこつちも　義理はかゝせぬ世がつらい
●同　花の莚を敷迷ふ
●同　草の蔭から秋つげる
●それは〳〵　嫁が漬もの妙得てる

●素ぶり見て　氣の附〳〵嫁が出した酒
●同　奥さんからの下女に際
●そこが大事　筆法にちから入させる
●そつと明け　待兼た手を引入れる
●同　裁縫所這入る物静
●同　宿直が水鶏たしかめる
●同　介抱がかへる水袋
●同　箔おく夫マへ飯しらす
●同　母が無心を呼もどす

〔つ之部〕

●積どほり　秋仕舞して縁に附
●同　拂ひ仕舞たら銀子丁度
●月見して　古郷戀しう歌に詠む
●同　もたれ心のよい柱
●同　琴の音冴る嵯峨の奥
●同　古歌の咄しも出る座敷
●同　忘れて戻る笛袋
●綱つけて　村中總出の橋の番

●うてんとん　隣困らす柔術家
●同　弟は投た五斗俵
●同　土俵の勝が美くしい
●同　笑ふた奴つも凍すべり
●同　床儿退ならのくと言へ
●つり錢かへし　諸合西瓜自慢こく
●同　氣は心だけまける店
●同　此一厘も勘定まへ
●同　御入合しを願ひ升
●同　毎度大きにありがとう
●同　氣を心だけ負ておく
●同　落さぬやうに手に括る
●同　一寸お待と添物を
●同　豆腐屋の手が氷そな
●同　何ど外にもすゝめてる
●同　札添て出す切符窓
●同　木戸番が札添て出す
●同　五厘のまけも氣は心
●机に乗せ　歌種になる桐一葉

●机に乗せ　積た雪見る鉢の松
●同　系圖一卷土用ばし
●詰て居る　玉座間違う侍從長
●同　形を叩くと出來し菓子
●同　嫁の鎧笥に揃ふ四季
●同　どの濱土藏も豐の秋
●同　一手も透かぬ駒運び
●包でる　珍物となる圍ひ梨子
●同　素性ゆかしい琴藝妓
●月が替り　產婆がとめた針仕業
●同　次の幻燈は雪げしき
●同　小頭讓る纏持
●同　戌の日を待祝ひ帶
●つんとして　妾は傘を高うさす
●同　藝妓にわるい癖しかる
●同　容貌自慢が顔に出る
●追善して　話ひの友が仕まひ舞
●同　弟子が口々師を惜む
●同　故人の好の鼓うつ

●月夜ぢやく　氷魚の漁の網が利く
●同　納涼に行かう橋の上
●同　車嫌ひの花もどり
●同　明日賣前の芋洗ふ
●つゝしんで　勅題にとる筆の鞘
●つかひよい　正直ものに氣が置けぬ
●同　色氣がなうて尻輕な
●つまらぬなあ　ひとりぼかんと花の留主
●ついそこら　未だあたゝかい馬の糞
●つかまへて　母は異見にむせかへる
●同　母が否がる顔みかく
●同　指環の違約責て居る
●月が出て　盃しばし下に置く
●つらい事　天窓撫々消した帳
●同　いつそ叱てはしい嫁
●常が大事　親が遊びの友ゑらむ
●同　灸好だけ風邪ひかぬ

〔ね之部〕

●ねぶり附　姉のこそばい乳で寢る
●寐たさうな　養父入母が笑ふてる
●同　乳房放して針仕事
●同　脊中の五形花落してる
●願ひが叶ひ　嫁が左りの下駄減らす
●同　師の名もわげる太刀の顳
●寐しづまり　飛ぶ蚤音も聞く宿直
●同　隱された時計耳につく
●同　川水の音瀧にきく
●寐ても居られぬ　辻に踊りの聲がする
●眠たがり　饅頭見せてもはしがらぬ
●念入て　縫目をしで〳〵御乳の人
●同　突て見て貸す雪の杖
●同　讀でいたゝく母の文
●同　風邪引なさで母の文
●根分して　芍藥も遣る藥なら
●同　注意を添へる菊の主
●同　芽を銀子にして萬青年寶
●念佛唱へ　毛綱よつてる門徒村

●寐ながらに　小説といふ置洋燈
●眠氣さまし　山駕を出て藤ほめる
●同　二杯酢で食ふ心太

〔な之部〕

●ならんで行　軍歌に勇む運動會
●同　喇叭相圖の足揃ひ
●同　戰爭しさうな東西や
●同　ふた子かと見る辻か花
●同　死なれた佛よい子持
●同　情死一所に埋葬する
●同　拜葬立派に皆車
●同　縫子の容顔揃ふてる
●同　中の車はたしか嫁
●同　後ろ姿も似る親子
●同　中に眼に立俄尼
●同　海月が凡そ一哩
●同　車夫が反則叱られる
●同　どちらが姉か田植笠

●ならんで行　道路せましと闘二人
●同　島田の方が小姑
●泣くなく　咒ひになる親の唾
●同　佛參の孝論す僧
●同　世帶は八起七轉び
●何事も　佛といふてくらしてる
●同　神籤に問ふてゐる信者
●並んでる　塵もとふさぬ池の鴛鴦
●何者ぢや　下の句詠だ御意に入る
●同　投石覗く柿の主
●同　やつぱり犬でありました
●夏も過ぎ　月に氣のつく棋の露
●同　輕みの附た雲の脚
●何は扨置　神の棚から煤はらひ
●同　無事に着たと電報うつ
●同　祭りの曠に屏風買ふ
●同　氣質媒人にとくと問ふ
●同　火の用心と親大事
●同　酒つけてくれ雪戻り

●何は扨置　笑ふて借た銀子ぢやもの
●同　父母の無事問ふ旅戻り
●何のため　方除笑ふ運さかり
●なぶりあ〳〵　はじけた儘で桶屋呼ぶ
●同　母が針山あぶながる
●同　鏡は顔を寫すもの
●同　眉毛に唾をつけて聞
●同　かすつた墨が筆の味
●同　丁稚に鮒や水かける
●同　茨の花には針がある
●同　子守を呵るうるし桶
●同　母は氣兼な小間物荷
●同　唖劍殺の方に當る
●同　火箸を隠す膝の下
●同　そりや龜ぢやない泥龜ぢや
●同　古畫は年數の儘がよい
●泣顔して　雪の門舞ふ越後獅子
●同　賊兵の畫が書てある
●同　見送て出て醫師見てる

●泣顔して　無二膏ちよこ〳〵張かへる
●同　土産の眞粉捨となる
●なつかしい　つひ〳〵長うなつた文
●同　何咄そやら涙やら
●なるほど〳〵　一枚落す師の鋏
●長い〳〵　煙管禿の脊はどある
●同　一つ結んだ干大根
●同　減つた油にしる夜寒
●並ならぬ　軸の目利が印譽る
●なるほど〳〵　聞きや極樂は胸にある
●同　莚敷たらゆれぬ臼
●同　藏かへす字で理がわかる
●同　勘定違ひを笑て出す
●何事も　嫁は柳でかたよらぬ
●なんでもよい　馳走は庭の花で足る
●何かしらぬ　漁師がたぐる重い網
●同　土産の包み明けたがる
●何か知らん　向ひの家は賑やかな
●同　夫の不機嫌氣にしてる

●なんとまあ　子供の筆と思はれぬ
●慰に　佛師の軒に雪達磨
●同　天眼鏡もある和尚
●同　初物裏で取る隠居
●同　禿に毛糸買に遣る
●同　釣たれる日もある閑居
●同　姫君も出る園の草
●同　枠張絹もある方丈
●ながめ盡ぬ　茶にも酒にもよい名の夜
●涙　のたり〳〵と暮暑し
●同　土蔵の戸前に手際ぬる
●なにもかも　水勝手までけなりがる
●同　錢が先だつ町住居
●なんぞほしい　餅でい酔へぬ峠茶や
●同　蠅不入さがす茶碗酒
●なんとまあ　髪も結ひ様で増す容貌
●同　夕べの雨で田の勢ひ
●鳴出して　初蟬はめる氷店
●同　秋隣知る草枕

●泣出して　よせてる巫子にぬらす袖
●同　無心上手に言ふ娼妓
●ならべます　軒先きめてゐる冤
●同　石屋も情死知る石碑
●同　宅替の荷が布袋出す

〔ら之部〕

●樂に寢て　蚤取粉にて樂はめる
●同　抱籠くゝる北ふろし
●同　船ではんまの辟をさ〳〵
●同　雪に夫との旅ふもふ
●同　彌陀の手引の夢見てる
●同　田に待た雨涼しがる
●來年も　用意に堀らぬ百合畠
●同　米は低價であらしたい
●同　豐作いのる神樂舞
●同　踊れるやうに祈てる
●同　無事で閑たい花の沙汰
●同　積立殖す牛仲間

●來年も　此種植て畝一俵
●同　米が取れたら土藏建る
●同　豐のしるしの雪が積む
●同　適齡になる孫がある
●同　瑞穗の秋であらしたい
●同　花に曳たい老の杖
●同　斯あれ八束穗を祭る
●同　連すゝめてる參宮好
●同　言葉殘して去ぬ神樂
●同　此豐作が見たいもの
●樂にゝらし　十德着ると際過る
●同　あゝ有難さ御代に住
●同　最う目の落た相撲取
●同　鏡臺たつと用がない
●亂心して　伯母が來てさへ格氣する
●同　禁酒の札も刀疵
●同　夫トおもひの一圖から
●同　白い位牌を抱歩行
●樂になり　最う寢ませうと門すゝみ

●業になり　朝夕は借らぬ團扇風
●同　按る孝子を休さす
●同　退役の後は牛と出る
●同　齒醫者戻て枕する
●同　店は我子で手が揃ふ
●同　最う朝夕の袗が合ふ
●埒が明き　湯熒に渡す煤箒
●同　汐待してる船大工
●同　下女があきれるとゝろ汁
●亂醜き　庭一ぱいの鮪拾ふ
●同　樋の口々に筅たゝ
●同　御秘藏の鶴につゝ狐
●同　籠の鶯覗く蛇
●同　幼女もお乳母も狐付
●同　糞擔桶飛ばすあばれ牛
●同　ひと日油斷に繭のてふ

〔む之部〕

●向かはり　緣起つらゝ永觀堂

●向かはり　家内中がとる年の豆
●同　爪に出船の用意する
●むせた〳〵　乳母の顔まで飯ふぐき
●むりながら　時雨凌いで居る日傘
●同　笋堀に行寒中
●同　輪で擂盆を遣ふてる
●同　孝子の願は神も聞く
●群合ふて　岩から獅子が舞て出る
●むつかしう　壬生の熊阪能ウめかす
●向ひから　四斗樽潜る雪の國
●同　眠る店番あぶながる
●結で置　戻りは問はぬ草の道
●同　餅花よけて神酒上げる
●同　披露するのは春の事
●同　豆腐天狗な料理人
●陸じまい　水の手もよい合併村
●同　犬と猿でも育能く
●智さん貰ひ　自然薄らぐ美婦の沙汰
●同　見立番附退く娘

●智さん貰ひ　まあ一年は花嫁子
●同　麁のなはる姉むすめ
●同　家のしまりが堅うなる
●同　今年は輕い籾の臼
●同　娘の氣隨ちやんとやむ
●同　隱す笑顔が包まれぬ
●同　見違へるほどやつしてる
●同　宵寢して遣る母の粹
●虫が附　半夏生の後は切らぬ笋
●同　伊勢の扇で稻あふぐ
●むさ〳〵と　湯水の銀子を妻が泣
●同　妾をし氣なう緋縮緬
●同　紙魚の巣になる書物箱
●ひつくりと　却て店中怖がらす
●同　甲斐性を譽て居る悟氣
●同　花魁うらんでない文に
●同　縫子に受のよい紋師
●同　富士も過來た酒の味
●同　嫁は惚人へ疵つけぬ

●無理いふな　醉はぬやうにはのめぬ酒
●むりはない　鉢はわれもの破る筈
●無理もいろ〳〵　看版買へといふ子供
●ひし〳〵と　嫁が羽織の皺延す
●同　はなのあがつた麹室
●同　蚊帳這て出て風搜す
●同　暑いは稲のためによい
●ひつかしい　先生と言ふ名にしと〳〵
●向ひも隣も　灰やが出來て困つてる
●同　負けぬ日の出の西洋建
●同　春の子が留主してる秋
●昔も今も　君が代は未ださゝれ石
●同　質素を示す萱の屋根
●同　家は異なる壽で傳ふ
●むりむたい　逆艪で越へる年の波
●同　組重にさゝぬ酒はつれ

〔う之部〕

●憂な事　神に預て氣が安い

●憂な事　とれぞひとりが男なら
●同　鍾氷る夜も乳もらひ
●同　這子をがます魂祭り
●嬉しさうに　刈はじめたる豐の稻
●同　どうやら緣のある見合
●同　本復の顏見せに來る
●同　曠の小袖の躾とる
●同　婆父入さんが御入來
●同　乳母の脊中でふ〳〵喇叭
●同　春着きせると見せ歩行
●同　歸朝出向ふ言號
●同　及第　證書貰て去ぬ
●同　産婆たのみに母が行
●同　姉が産聲覗てる
●同　あの藪入の輕い足
●同　樽はづすと乳にすがる
●うつ〳〵と　酒氣に眠る汽車の中
●現になり　他事何事も見ぬ机
●同　眼にのかぬ戀憧れてる

●運のつき　鬼が名將の智に亡ぶ
●啞ついて　我身の箔を落してる
●牛に乘　村長が寫眞洒落てとる
●内に居るか　歟道りの中へ辭かける
●同　碁など打とると春の雨
●裏から廻り　忠義が妾に横戀慕
●噂が高い　褒賞の御沙汰ある孝女
●同　古郷の角力に關で來る
●同　牡丹にたまる名刺札
●梅もあり　書添したる貸家札
●同　よう似た藥家似た小窓
●同　茶店の出てる家敷あと
●同　をしながめる無住庵
●同　谷から庵へ道つゝき
●嬉しい車　母にたづねて熨斗結ぶ
●うつすりと　遠山に刷毛師が敎へ
●同　妻もたしなむ往連の内
●同　本性たがへず覺ゑてる
●同　花嫁が顏刷て寐る

●歌が好　嫁の字なが今小町
●氏より育　莚遊びも投出さぬ
●旨い〳〵　牡丹餅に腮落さうな
●うき〳〵と　嫁入前の氣が違ふ
●同　仕業嬉しい宿這入
●啞でなかつた　看板よりも怖い虎
●同　番頭の宿へ來る媒人
●同　數珠まで持て來た娼妓
●同　姑の氣が阿彌陀さん
●同　開帳場の俵につく鼠
●同　伯母の紀念に櫛が添ふ
●同　噂の人と瓜ふたつ
●上にも下にも　皆受のよいものいはず
●同　木綿瞋着の一別家
●うつかりと　羊羹悔やむ虫喰齒
●裏かへり　花道で舌ぬつと出す
●上を下　今出棺に蘇生する
●敬はれ　凡人でない身の果報
●同　後世に輝く碑も勳功

●敬はれ　仁義の道を蹈む人は
●同　かなし人形も内裏雛
●同　陰徳が世にあらはれる
●同　もう化て出ぬ古狸
●同　生た佛と拜まれる
●同　翁の幹稲壽に賜ふ
●同　赤い頭巾が上座する
●同　かなし馬でも神の馬
●同　徳は草家に住ながら
●敬ふて　親は我身の神佛
●同　御寫眞の前菊活る
●同　素通りはせぬ神の前
●同　琴の師匠へ絹ぶとん
●同　杖持添て迎ふ老
●同　唱歌は君が千代八千代
●同　國底の靡く御道筋
●うんともすんとも　娘が出世聞わけぬ
●同　顔でおしへる枕蚊帳
●同　遠い棧敷までさく愁ひ

●うんともすんとも　ぬけた川鹿に笛かける
●上に上有　千人目には負をとり
●運がひらき　堂島の銀子鷲掴み
●同　大かい金脈得た鑛主
●嘘の皮　どうぞ〳〵の文五尺
●同　移り香嫁が承知せぬ
●俯向て　慈悲の意見にちりひねる
●同　勅額尊敬してとぼり
●同　手を組だかて銀子は出ぬ
●同　更る時計を見ぬ夜學
●同　足らぬ言葉に愛がある
●同　世間の奢り見ぬ養子
●同　馬が遺言しをれてる
●同　柔術取と相撲取
●同　樂は稼の中にある
●同　何を見合に來た娘
●うつくしい　見れば見るほど增す妬み

〔の之部〕

●殘りなう　鷄は奇麗に米拾ふ
●のんどりと　放し龜賣る彼岸橋
●のれん越し　粋な掛取のぞく嫁
●野風呂さげ　はたげ芹摘む道すがら
●殘して置　藥にもなるかさり海老
●同　初物食はぬ夫の留主
●同　鈔ン屋に埃大事がる
●同　翌日迄木の葉着せる茸
●同　釘のをれでも證據もの
●同　本ンとくらべる文字替り
●退なされ　石工丁稚に注意する
●同　肩入替る神輿舁
●同　珠數に恐れて伏狸
●同　怪我すりやわるい馬祭
●同　馬の後の子を呵る
●同　隣から來た蝮指
●同　祠してやる狸つき
●同　手のくたぶれた杵替る
●同　線路に注意する驛夫

●退なされ　箒で猫の顔撫る
●同　母が火熨斗を當直す
●咽鳴らし　奥樣の帶撫て見る
●同　誰れも目のつく非寶品
●軒傳ひ　美濃と近江に猫の足
●同　雪に隣で風呂貰ふ
●同　泣聲に泣去られ妻
●能ウ　別莊に洩るゝ笛太鼓
●同　秘藏の面や瞋に出す
●同　簪りに凄い鬼女の面
●のら付て　細工人錢ぎらひ
●同　書出し箱に蹴爪突
●同　寺さへ隙の出た男
●同　鉋の錆に妻が泣く
●同　男妾の碁があがる
●幟立て　松も壽く風が吹く
●同　大漁の浦は賑合ふて
●同　奥の院にもわる賸姫
●軒並び　火も花と見る年の市

●軒並び　機音世話し師走めく
●覗てる　釣瓶をとるに邪魔になる
●同　客へ失敬の第一ぢや
●同　嫁は小遣ひ帳隠す
●退てゐられぬ　氣に入過てつらい妾
●同　糊焚く母が春泣かす
●同　浮雲い杖に嫁が添ふ
●呑で置　ぬつた燒酎があまつてる
●同　母の文から出た丸子
●咽ならし　松風ふくむ紹の羽織
●のみこんで　數寄やの用になれる嫁
●同　星の夢から孕む嫁
●同　乳母に丸薬はめられる
●同　新酒賣さぬ米問屋
●乘かへて　鹿さげたまゝ柘の驛
●野も山も　鳥は囀る蝶は舞
●殘して置　太いたけの子親にする
●同　未だ欺す氣のある眉毛
●後ともいはす　乳を遣る嫁が深切な

●のけて置　針のをれでも證據もの

〔く の 部〕

●くさみして　聞落したる郭公
●同　半てんちやつと着せる嫁
●黑うなり　血の加減ぢやと乳隱す
●黑うても　南京米の事おもや
●雲行見て　小舟の出たす漁師町
●口々に　穗に穗暮々祭り行
●くすぶつて　焚人の凄い狸汁
●口惜しい　涙で消える二の燒香
●荒地を開き　檢査が濟で下りる鶴
●藥になり　神農の外の鷄卵酒
●同　はたらいて酒旨うのむ
●同　無病は犀の住流れ
●同　近所へ知らす菖蒲風呂
●同　孫にもひと火二日灸
●同　老若ともに青き踏む
●同　灸醫が花見誘引てる

●薬になり　吊て遣る孕鹿
●癖になり　寒うない夜も豆腐たく
●同　旅もどりから寐酒のむ
●同　春の旅から朝寐する
●くるりから　百姓家はよい青田風
●同　撫てよい子にする瓢
●同　生徒に見せる解剖室
●同　壺の根付に龍の彫
●同　臼目を立た灰おさへ
●同　箸で輪をかく茶碗蒸
●同　巨燵が丁度蛸の足
●同　叩いてしめる桶の箍
●供養のため　漁師が僧の宿してる
●同　無銭で一日渉し舟
●同　貧女の軒も盆燈籠
●同　栂檀うゑた長堤
●同　一石〻もする握り飯
●同　思の忌日に鳥放す
●同　鐘鑄の足しに出す鏡

●供養のため　順禮の宿する漁師
●同　無縁の塔を建立す
●同　彼岸にとらぬ渡し銭
●同　雀を買ふてつりとらぬ
●工夫は種々　反古はのこらず器械の圖
●同　雛がた並べとく器械
●同　下より廣い二階の間
●薬り　寒さ忘れて湯屋もどる
●同　寝間へ涼しい風入れる
●同　朝起の身にあたる風
●同　病氣の治る湯の利目
●同　氣に合ふ程に鍬遣
●同　老が朝露踏に出る
●同　伯父の異見の苦い事
●同　親が蓼湯をすゝめてる
●同　着て寝る夜具は日にさらせ
●同　腸になる土用餅
●同　旦那もおなじ麥食てる
●同　酒もすこしは身の滋養

●薬り　當地の德かよ伊吹草
●同　氣の保養になる花見
●同　食事定めて運動する
●同　神のさし圖のこの榊
●同　朝日の出るを田で拜む
●同　菖蒲の翌日を湯に立る
●同　はたらいて呑め禁酒より
●同　牛食はすより追はす方が
●同　旭の光線を窓へひく
●同　運動充分腹八分
●同　薄雪磨て肉屋出る
●同　青田見てると氣がはれる
●ゞすゝと　足下手は未だ阪の下
●同　餅ちぎる婆々鈍くさい
●括られて　幼男のおもちやになる蜻蛉
●會日には　名のある釜と掛替る
●同　寂庭すつと敗松葉
●組で居る　關の勢ひは龍と虎
●汲でねる　出代り惜むひと釣瓶

●杭打て　堤へ柳さして置
●位があり　潰しで見ても無垢の金
●雲がかゝり　虎が涙の雨催ひ
●九分九厘　二百廿日も無事ですむ
●工面して　男の立た返事する
●會　あだ惚もある艶がたり
●會毎に　替つた茶器がはしうなる
●國々巡り　碑に德殘す杖の後
●同　民の辛苦を考へる
●口を明　笑ふ栗にも針がある
●くるゝと　一心に踏む御百度
●同　小男はめる掃除の日
●同　去年見殘した花の奥
●同　撫ては笑ふ今坊主
●同　紙の流れて出る機械
●草がはへ　門田世話しい大百姓
●苦の憂き世　金が有ても子に不自由

〔や の 部〕

●やふれたく　讀書の明い芭蕉窓
●同　近い落雷知る芭蕉
●同　蜘蛛の散てる桐一葉
●役をさめ　鐵さけが風呂焚付る
●同　笙篳篥の稽古する
●山から戻り　獲物帖しをする榾火
●同　いたゝく柴に月がさす
●同　門に釋杖の法螺の音
●同　先づ犬に飯遣る獵師
●やすい事　櫻時なりけふの鯛
●同　銀子で命が買へるなら
●大和巡り　土産に鹿の筆も買ふ
●やかましい　婆々で臺處持てゝある
●同　行司の多い辻相撲
●同　猫がしれんと婆々が寐ん
●やれくまあ　世帶渡して丸頭巾
●同　拂すませば春でゝろ
●同　けふは我世の酒の味
●同　拭た天井を寢て見てる

●やれくまあ　拂濟して樂に寢る
●同　風呂や戻ると除夜の鐘
●同　坊へ落着く絹脚絆
●同　稻も手足ものびる雨
●同　牛の脊に積む雪拂ふ
●同　最う是からは毒養生
●やあく言い　蛇籠も編で土俵つかす
●同　市の賑合ふはつ鰹
●同　辻曲て居る御用材
●同　磯の雪消す鯨網
●同　粥の身につく朝稽古
●闇も月夜も　味の動かぬ御寺柿
●同　顧に恐れぬ神の道
●同　神の惠みにない隔
●同　孝子のかゝぬ顧詣で
●同　家主が見込む程稼ぐ
●雇はれて　かた法華でも榊持
●同　蛇をとる餌にもなる孝子
●山家から　鹿が啼とは案内書

●山家から　佛のやうな人が來る
●同　堀出す石が世に光る
●やれ〳〵嬉しや　證書燒〳〵間へ酒運ぶ
●同　書置見れば伊勢參り
●同　明日は目出度宿這入
●同　子がそれ〳〵に皆戸主
●同　家賃を出さぬやうになる
●同　古郷の山を近う聞く
●同　とうさ讓つた後家名前
●やれ〳〵まあ　につと笑へる極はしてる
●同　峠見おろす女連れ
●やれうれし　獵師の産子に痣もない
●やれ〳〵嬉し　横抱て去ぬ乳貰ひ
●やれうれし　洗濯蒲團かたづけた
●やどりかさね　須磨のひる寢もはなし種
●舍り重ね　雪に困つた狂歌詠む
●役は立ぬ　い〳〵ら位牌に詫しても
●やはらかに　嫁が叩いた蠅が飛ぶ
●宿取て　是非行人に杖讓る

●家移りして　薫りの高き新ら壘
●約束通り　白い西瓜に首が入る
●同　無抵當の銀子怠らぬ
●同　逼塞見ても娘遣る
●同　たゝかれた戸を師がはめる
●同　養老保險を笑てとる
●同　不容顏にもせよ言號
●やけぢや〳〵　婆々も白粉して踊る
●同　禁酒やぶつたふられ客
●同　嬶が去たら身が持てぬ

〔さ の 部〕

●さゝかの時に　子持は氣附買て置
●待兼て　花の盛りの呼使ひ
●同　たつぷり降た慰の雨
●枕して　引よせて見る新聞紙
●益々よろじ　家も榮るて子も殖る
●同　機に名譽の進歩織る
●幕打て　絃歌の聲の奥深〳〵

●眞直に　道守る人まもる神
●前を廣げ　馬場に植たる松さくら
●ます〳〵と　何はなくても酒はあり
●またしても　老が子のない愚痴こぼす
●ま　正直者の名が通る
●又かいな　はづれる癖が付た腮
●同　母が文よむ奴賣
●未だはやい　梅に來てゝも只小鳥
●蒔ぬたねは　親の善根子に來てる
●同　嬶をしひなよ子の學資
●同　慈善氣のつく説教聞
●同　後世願ふ身が施行出す
●同　子孫のために施行する
●同　易者いふたて運が來ぬ
●同　出來ぬ色事出さぬ錢
●同　善つめてある世の欲へ
●同　思はずもどる親の貸し
●まあ〳〵〳〵　極もかなりな酒の味
●同　乳母の油斷に遠歩行

●まあ〳〵〳〵　御年役から御盃
●同　遠慮を酔す久しぶり
●同　折角出した猪口持す
●同　ねんごろに解く鱈の苞
●同　氣のかたづいた袴ぬぐ
●同　今日の上座は太神宮
●同　此大雪がひと夜さに
●同　吸がらのあと下着まで
●誠かとほり　仁に及向ふ敵はない
●同　思はぬ見受して貴ふ
●同　天から歌の雨降らす
●同　道德心を保つ人
●同　千里隔ど夢に逢ふ
●同　貧の備へた煙は消えぬ
●同　詠み歌に降る神の雨
●同　祈らぬ神も身にまとふ
●同　四民の心一に寄る
●同　肩脊のせまい門ドはない
●同　世に識り人のない出世

●誠がとほり　自然と神のちから添ふ
●同　義民の勞は世にすてぬ
●同　無抵當で金自由する
●同　善に趣く身の果報
●同　天理に叶ふ身の冥加
●同　滿願の夜に夢の告げ
●同　釣合ぬけど嫁にする
●同　鬼でなかつた伯父拜む
●同　我發言の皆賛成
●同　世の鑑にもなる忠義
●同　同盟仕合ふ國と國
●同　藥師堂出ると乳が張
●待兼て　母の柴荷に手をかける
●同　新絹後と荷せ〳〵景氣
●同　戸を明けた手で雪はらふ
●蒔ちらし　子守の足にまとふ鳩
●同　幕湯のお客大事がる
●同　善根を積む老夫婦
●待身になれ　吸売の山見せて居る

●まけた〳〵　不足も言へず漆の木
●まさかの時　逆櫓もをしへと〳〵兵士
●負をしみ　腕もをる氣のちから石
●同　向ひも買ふた初松魚
●同　裂れむだに裁つ小姑
●同　轉けたと言はぬ酒屋の子

〔け の 部〕

●化粧して　古郷へ見せる花の袖
●同　棚元仕舞ふ其當座
●同　藪入が顔見せに來る
●結構ちや　稀な閑帳に合て去ぬ
●同　此あつい茶を救助小家
●同　今は金子より孫悴
●同　兄の孝行に皆が似る
●同　產だ子が皆賀に揃ふ
●けなりがり　わたしはしらぬ親の顔
●檢査濟　燒物の附く水曜日
●同　志願の膳に鯉がつく

●今日ぢやつた　去年裂た極そつと見る
●同　魚に鹽た〳〵花屋呼ぶ
●同　牡丹餅貰て炬燵きる
●げからはしい　封じた儘で文捨る
●同　格氣が兀す紅の入み
●同　妻帶笑ふてる清僧
●同　みさほに障る文やぶる
●同　以後いましめて去す後家
●同　義理にある銀子戻す後家
●けれどもなあ　やればこちらもない世間
●同　お添はしなされ死すより
●同　なうてよい子も産みや寶
●同　産めば遣る氣にならぬ親
●同　儲けぬ年も施行出す
●同　壽命は別と見舞て去ぬ
●同　惚さし過りや凄うなる
●同　親癸へばあはでない
●經唱へ　白檀の香が間に滿る
●同　命日の蚊は吹て追ふ

●經唱へ　善根宿を立旅僧
●同　亡き親の日を知る小僧
●同　獵やめて着る皮衣
●同　ふり上げて太刀段々壞
●同　魔のためす氣も恐てぬ
●同　翌日尼になる衣縫ふ
●稽古して　大砲の音がさのみない
●今朝見れば　つもり違ひの旅の雪
●同　未だ田に寫る柄なし鎌
●同　ふちよぼの髓が落さうな
●同　腔のはげてる替り下駄
●化粧して　舞はぬ妹も乳母と來る
●同　老ても伯母は御所辷り
●檢査ぢやく　子供ながらも朝寢せん
●毛が長い　雛の官女の直が違ふ
●けがの拍子　蠅の飛こひ幼男の擺

〔ふの部〕

●ふゐました　鬼子母神さま笑はれぬ

●ふゐました　五十の直打出た白髪
●同　飛入のある參宮講
●同　雨夜から蚊帳釣そめる
●二日も三日も　祭りのきつい山の神
●同　善はいそげと惡はのべ
●同　未だ書はてぬ千羽鶴
●同　立氣にならぬ不盡の宿
●同　雪に道路のとまる汽車
●同　鶴が宿かる神の森
●同　呑くたぶれた花の宴
●同　花に我家をわすれてる
●福々しい　産婆の口が譽はじめ
●舟に乘り　島の田の稻子も運ぶ
●同　家の棟から救はれる
●觸歩行　姉の戴入嬉しがる
●同　寺の寄進の漁がある
●同　子は千石も搗やうに
●襖しめ　文をながめて一思案
●同　寢行儀見せぬたしなみ人

●ふけて見ゐ　妾が紙衣脱してる
●同　孝にやつれた嫁はめる
●同　紀念を着ると親に似る
●同　夜景は畫師の筆づかひ
●同　知惠のありそな顔の相
●同　眞事に損な禿げあたま
●冬の内　何をせうやら坊男
●二人連　逢ふた媒人がうれしがる
●船なり汽車なり　今の世に言ふ金子草鞋
●ふり放し　畫師にする子をひとり旅
●同　妻子縛つて辭世書
●同　指環轉げる廻り樣
●同　出て行僧にある不思議
●同　生娘の手は未だ無慾
●深い〳〵　三味線のやむ納涼舟
●ふつと眼覺し　襖隣に歌がるた
●同　何思ひけん媽起す
●ふとい〳〵　注連張てある杉一樹
●ふし付て　軍歌を諷ふ幼稚園

●ふしつけて　念佛引ばり廻してる
●踏たり蹴たり　荷造りの繩しめてゐる
●筆持て　修行にまはる畫師の弟子
●同　密談の間はひそやかな

〔こ の 部〕

●こらへられぬ　寒風嚴しい戸の透間
●同　吹雪に鼻がとれさうな
●同　内の艾はよけあつい
●御めんやす　うしろの後まはる嫁
●憧てる　今夜も蜘蛛が下りて來ぬ
●子持になり　釣り餌に落る雪の猿
●同　戸のしめあけが和らかな
●同　智の疳症がすこしやむ
●同　夫におくれる朝もある
●今宵の曉　門火にうつる揚帽子
●同　初鰹ほどに母もぬる
●肥た〳〵　粥も身になる奉公して
●同　出世した筈强いはず

●肥た〳〵　頂つた子が返しよい
●戀　夜半の深雪も踏まよふ
●同　思ひはいつかみだれ髪
●ころ〳〵と　嫋持てから弱い相撲
●こりや待て　兩手に命ひとつづゝ
●子が出來て　今としや大原へ畫參り
●同　否といふたが耻かしい
●これはしたり　拾ふた文に嫁が泣く
●これ見たか　妾の門行宮參り
●これ倖い　からで去たら寒い車夫
●同　改心連て行法事
●同　離緣咄しを消す惡阻
●同　煽てる下女に交たのむ
●戀こがれ　心のたけを錦木に
●同　好な琴さへ手にふれぬ
●同　辛氣〳〵が頰に見える
●同　寢たる譯があかされぬ
●同　笛とは知らず秋の鹿
●同　辛氣もやしてひとり病

●戀こがれ　寫眞はなさぬ言號
●同　しらべる琴もくもりがち
●肥てる笑顔　餘所の子でさへ賴母しき
●同　七難隱す嫁の愛
●同　一座迷はす愛敬もの
●こんがよい　長い自然薯掘る鍬
●同　下手も上手にまけぬ手間
●同　母がといてるもつれ糸
●古郷を思ひ　花咲につけ戀し友
●今年から　命とともに延す髯
●こぼれた〳〵　持盃へそよぐ萩
●同　井戸端へ鷄呼でゐる
●同　鷄に拾はすつまみ賣

〔ひの部〕

●袗數よみ　辛抱が仕着施見せてゐる
●畫にかゝし　私しも交て居る戰爭
●同　初夢の富士額にする
●益があり　年の上なる友ゑらひ

●設色た〳〵　染屋に四毛の猫がゐる
●同　一町がをどり大江山
●同　孫が畫紙衣わやにした
●繪馬堂から　種拾て出る彫物師
●同　木の葉散る樣な斥鷃
●同　乾た日傘さして出る
●畫の具とき　礬砂の加減見る畫工
●ゑらい事ぢや　親しかりをる天狗附
●同　世帶盛りが子さがりで
●ゑへん〳〵　扇持日はあらたまる
●同　黑の羽織のお揃ひで
●ゑり分て　片荷の金魚直が高
●畫の具買　器用で盃の行燈書
●會得して　次の目の鶴ひとりをる
●同　弟も智惠の輪が組る
●同　身替りになる子が泣かす
●遠慮仕合　悪い相性も睦まじい
●遠方から　暑中休みに親見舞
●同　寫眞持つての聞合せ

●笑顔隠し　結納の傍を立つ娘

〔て之部〕

●天にまかせ　競争せずに實意賣
●手が足らぬ　儲かる咄し借う聞く
●同　旦那も遣ふ年の暮
●同　襷かけたりはづしたり
●同　妾も來てる店びらき
●天をはしり　出世の出來る夢らしい
●手をつかへ　たゝしい妻の物靜
●同　奉公してからよい行儀
●調子よう　若人の揃ふ杵の音
●同　連ふし揃ふ田植歌
●同　音頭上手に踊りつめ
●同　足の揃ふた踏鞴ふみ
●同　ふり出すやうなこぼれ萩
●同　姉妹らしい合ぎぬた
●同　母の機嫌な合ぎぬた
●手がすかぬ　機械場でのむ風藝
●手に入て　祖師の眞筆拜せる
●同　怖い牛でもまとふ追ふ
●同　洋行戻りと副院長
●手拭々々　接木に妙の柿の主
●てきめんに　袴着の手を妾が引
●同　醫藥孝子の信に利く
●同　田の株はゝる土用照
●同　池はした丈田に眼立つ
●同　行場で記る嘲け口
●同　名歌が雨の雲起す
●手を取て　易者びつくり天下筋
●寺　實に極樂の道しるべ
●同　床柱にも緣起解
●同　心の鬼の捨處
●手を入て　名所の松の壽を延す
●手ちかゝぢや　器の儘で借て去ぬ
●同　世話の屆た梨子の畑
●手間が入　木賊をつかふ唐木職
●出來がよい　小村も派手に盆踊り

●出來がよい　初穂は神に奉る
●てんてこ舞　畚の子もねん猿も居ん
●手透になり　數奇や進に來る大工
●手を引て　中よい恥はない夫婦
●同　隱居が孫と運動する
●同　乳母が袴着自慢氣な
●同　盲人三人川わたる
●同　越せば越しよし年の阪

〔あの部〕

●安心々々　藥灰にもう猫が寐る
●同　笑はれる樣な遊藝なら
●同　洋行の寫眞肥て見る
●同　內の手代は皆不粹
●同　鮓桶宙に釣て置
●同　蜂の巢のある田の並木
●同　支店へ出齒の支配置
●足伸し　夜店の蛸に滿見せる
●あちら向　おちよぼの齒が落さうな

●あちらひき　すねた蒲團に風が洩る
●同　引つけ齒を見て貰ふ
●同　寶殘つたる市の雛
●同　一人結んだ帶見せる
●同　番頭の否とさく白齒
●秋が來て　富士見る窓が明てある
●同　味もさつぱり落る鮎
●同　川尻に見る鮭の魚
●あぶない　知識の眼から見る凡夫
●同　起してもまた凍すべり
●同　鉋屑から鑿が出た
●同　子等を呵てはしでとる
●赤うなり　橘めづる冬こもり
●明うなり　起して廻はる里烏
●同　火祭りに森たつ烏
●跡が大事　呵る禿に灸すゑぬ
●同　子を貰ふとも妾おかぬ
●同　膏藥張らぬ額の疵
●秋ぢやなあ　寺の庭にも籾むしろ

●秋ぢやなあ　巷は千種の花の中
●同　風さだまらぬ雲の脚
●同　磨たやうな星の色
●あり〳〵と　角ノの生へてる蔭ばうし
●赤い〳〵　鬼灯目立ッ藪の中
●雨　用意してある紅葉茶屋
●同　手ばなれ都合よい庭師
●同　窓うつ椎が夢やぶる
●同　松茸も傘ひらいてる
●同　洗濯ぬれる鳩が啼
●同　手枕に見る花の夢
●同　縄のゆるんだ盥俵
●同　蒼朮の香が軒つたふ
●同　土着せに行獨活作り
●同　花を待日は苦にならぬ
●同　野鍛冶も休む祝ひ酒
●同　椿のよとむ藪流れ
●同　うつむく艸を見て氣づく
●同　石灰の小家注意する

●雨　座敷に羽子の音がする
●同　瘡出來なければ守りがなく
●同　紅葉に銀糸縫添へる
●挨拶して　はづかしいのが嫁の花
●同　割木は元の釜の下
●あなたはまあ　稚ない顔を見それてる
●明て置　梅見る窓は寒うない
●雨が降　踊る百姓が鉦太鼓
●明うなり　鳥が啼けば寐てられぬ
●赤い〳〵　眼さましの子にとらす花
●同　茶山は派手な娘連
●あんまりぢや　持持の雪隠見に來てる
●あとを思ひ　大かい蚊帳買ふ新世帯
●同　死後の眼鼻は皆封書

〔さ の 部〕

●さいならまあ　四方へ別れる船上り
●さうぢやけれど　功德は人の爲でない
●同　妹に不孝の詫たのむ

●同　稲荷前にもある賀者
●同　そこは容顔が荷にこもる
●同　降られるまでと花誘引
●さうぢやけれど　蝙蝠傘を提て行
●同　やつぱり氣樂なは田舍
●草履はき　娘の手にも施行杖
●さめ〳〵と　恩人に言ふ身の不幸
●同　嫁の手にとる紀念服
●掃除して　鹽乘せて置通り札
●同　嫁が簞笥の片相手
●同　旦那の役は神の棚
●同　鼠を産んだ竹婦人
●さる戸明け　餅臼うんと敷居越さす
●嘸やさぞ　ひとり産さへ二人とは
●同　裏さ案事る母へ文
●榊　祭りがけにはよい掛地
●淋しがり　我より夫の旅おもふ
●同　戸もしめいそぐ秋のくれ
●同　踊りが濟むと凄森

●淋しがり　見舞人逗留さす有馬
●同　碁の鐘聞く初拳公
●同　呼子鳥聞く草鞋ずれ
●淋しい〳〵　本妻の寢間鳴を聞く
●さめた〳〵　堤を越した新酒醉
●同　遲〳〵とも踏人の道
●同　猩々の醉ひ古幟
●同　最一度見たい親の夢
●同　夢の浮世の髪おろす
●同　乳母が甘酒吸て見る
●同　介抱に咄す神の告
●酒は百藥　苦もくたびれも忘れてる
●同　妻の酌だけ呑でたら
●同　老ても顏の色がよい
●同　憂をはらして壽を求む
●三年立　もう否地せぬ茄子畑
●同　蕗子の粒がちさうなる
●同　市へ曳出す牧の駒
●先ひらみ　針屋が包む油紙

●倖い〳〵　寒食の日に鮓もらふ
●先が暗い　かゝり子のない後ろ厄
●さぐり見て　二股と知る大根引
●さりとはしらず　安う放した鷹の軸
●同　恨み詫てる嫁の實
●同　中よう遊ぶ言號
●同　病ひ母が居ん娘呼ぶ
●流石都　豆の葉までも銭になる
●同　數入が供つれて行
●同　土産の寫眞つい殖る
●同　家元と知る烏帽子折
●同　裏屋にもある御殿雛
●同　草餅にさへ蒔繪の重
●同　百荷の鯛を捌く市
●同　朝賀にしげき馬車の音
●同　名所の多い古歌の數
●同　御題の咄し合ふ按摩

〔き の 部〕

●聞たら德　一寸遊ぶも智者の傍
●同　五常の道がわかり出す
●狂氣して　妻とらへても學の論
●同　若隱居さす論語讀
●同　普請見合す方崇り
●同　曲輪に崇る鍛ひもの
●同　證文付けて去なす青樓
●器用な事　觀音刻む寺男
●同　表具上手な寺男
●同　鯛三枚にあげた嫁
●同　庖丁業とは見へぬ菊
●同　貧乏にならぬ御用慎
●同　左りで書た左り馬
●同　百姓と見ぬ蕊細工
●同　日本はまけぬ美術國
●同　張交署られてる食客
●同　流石木屑と佛師の子
●同　ひとり髪とは思はれぬ
●砧打　牛追ふ夫まの戻り待

●忌日忘れず　後家の操が照る佛間
●氣に入て　いつも按摩が碁の相人
●同　上座へ酌に出る美人
●同　拵どりの縁に付
●氣味わるう　堀出した壺明けて見る
●きたながり　耳を洗ふて世を避る
●肝つぶし　暗がり同士が聲上げる
●氣持がよい　寐臺の下もかをる風
●同　口の揃ふた聞合せ
●同　床わげて居る六日だれ
●同　旅へ出る日に初袷
●同　願ひどはりに出た神籤
●同　蓬萊すゑる青疊
●同　目見ゑの乳母の乳が走る
●同　節季奇麗に宵寢する
●同　書面にもか〳〵溫泉の利き目
●同　いそ〳〵見てる施し人
●聞た〳〵　今朝鶯の初便り
●聞づらい　淨瑠璃が風邪引てゐる

●氣味がよい　荷數ならべた青疊
●同　神鏡に寫る賀の小袖
●來てから〳〵　養子の手柄見ゆる帳
●同　今にかはらぬ御氣に入
●來て居ます　番附に笑む芝居好
●聞たなあ　幽ながらに二の聲も
●同　親の慈悲泣く襖外
●利たなあ　金子のないのが異見より
●聞た〳〵　和歌置て立鹿の宿
●氣味悪う　村正拔て見る賣屋
●氣味が悪　僧に行逢ふ杉の中
●同　初めて乘た藥研舟

〔ゆの部〕

●夕から　御隱居丈けはした巨燵
●同　産婆に腹の樣子言ふ
●同　長家中が借る臼一ト丁
●同　秋來る虫が涼しう啼
●ゆり起し　雪見誘引の狀見せる

●ゆるされて　新ら湯に這入る年男
●雪が降　野を去ぬ牛を畜師が書
●同　持病をさめに行針醫
●同　豆腐賣切り宵寢する
●同　施す草鞋なと造る
●同　狹屋の店がしめてある
●同　親にかはつた渡し守
●同　粕汁のある峠茶や
●同　米屋の丁稚雀とり
●同　湯豆腐出した俄客
●同　ごそつと減た炭俵
●雪が降　鷄卵を買ふて置妾
●同　手繩引こむ袖の内
●同　世にかこつ人愛る人
●同　不孝に募る母の癇
●同　今朝は未だ來ぬ水貰ひ
●同　なんぼ踏でも黑い米
●同　見しらぬ鳥が籾に啼
●同　前垂かつて五六町

●雪が降　水を汲こむ山の家
●同　巨健加減で親すゝめ
●同　捨所のない塵芥
●同　摺糠小家へ寄る雀
●同　鵜繩持た鵜釣り
●同　叩いて廻る藪の竹
●同　蘇鐵の葉に舍る鳥
●同　雀の這入る炭俵
●同　よう賣れて居る酒の糟
●同　朝はやうから酒買に
●雪ながめ　貧家の煙思ひやる
●同　しばしとはらぬ針の穴
●油斷して　見おくれた間に散櫻
●同　年の峠に蹴つまづく
●同　水うろたへる水所
●同　聲ゑらむ間に花が散
●同　嫁いそがしい俄寒
●ゆるゝと　牛も休ます適の雨
●讓てる　來た老人へ火鉢押す

●譲てる　廓の全盛名がつゞく
●ゆめうつゝ　つひ一昔ふたむかし
●同　琴の調子の狂ふ懸
●夢を見て　獏のはなしを聞て居る

〔めの部〕

●目出度〳〵　元より鶴の宿は松
●名僧ぢや　身に着る鹿の菩提心
●眼をこすり　炭屋の丁稚化けてゐる
●眼をむいて　寫眞の中に下女の顔
●めつさうな　月は畫工のゆるしもの
●同　鐘さへいとふ花へ馬
●召ます〳〵　貝合す連ひとり滅る
●同　御旅館へ出る白拍子
●同　嘶しのされる御錠口
●同　鏡覗いて出る御部家
●珍らしい　百餘の人もある戸籍
●同　彫師はめてる面の出來
●同　宵寢したのが孝はじめ

●妙ぢやなあ　今は子數の花魁落
●同　猫まで男産ぬ家
●同　下手が書ても不盡は不盡
●迷惑な　我手に似たる名なし孙
●同　下戸が明樽持される
●眼の正月　黄金ばかりの造り物
●同　猫抱れ行魚市場

〔みの部〕

●見やさんせ　二皮眼まで寫ッてる
●同　今尾が出來る飴の猫
●見ぐがくれ　孝の顧とは知らぬ母
●同　雲ぬふ鴈の高渡り
●見事なこと　船と思へぬ船の中
●同　獅子も出さうな初瀬の庭
●同　尾張大根のひと車
●同　鯛の摺れ合ふ膳隣
●同　箸入るのもをしい重
●同　柘榴一ト枝重たがる

●見ぬふりして　父の出て行吳服の荷
●同　數入覗く媒介人
●道を教へ　鳥が赤繩を忘れてん
●同　雪の窓からねんごろに
●同　柳に指をさしてゐる
●同　坊主が坊主てしらへる
●同　帛紗捌きもう出來る
●同　花の日和を喪て居る
●皆がをがみ　霖雨はれての宵の月
●同　彼岸の入日結構がる
●同　小島から呼ぶ助け舟
●同　袈裟もまばゆい生佛
●同　葵を持て加茂戻る
●同　朝日にあける船の窓
●同　白檀の香が間に滿る
●同　佛樒供養結構がる
●同　紀念貰ふて佛間たつ
●都みやげ　約束の逼もらふ姉
●同　打敗に添ふ銀杏の葉

●見るも哀れ　巡査が沼田船で越す
●同　蹴車に雪が積む
●みんなよし　枕も柱もある子持
●同　どこの田舍も笑ふ秋
●同　どれも他樹のない御庭
●同　衣裳あらそふ傘揃ひ
●同　寫眞百板美人がる
●同　どの田も磐て行村長
●同　どれも植とく福壽艸
●身のために　無給で勤む寺男
●同　產月までも裾切らず
●見合す顏　廓で逢ふた姉妹
●同　戀風が身に吹そめる
●同　おなじ思ひが縁になる
●見れば見るほど　一枚起請ありがたい
●同　面白うなる學の道
●同　壽の瑞相が眉にある
●同　垢のぬけたる筆の跡
●同　歸るをりない花盛り

●見れば見るほど　はめる今年の米の艶
●見て來たく　寫眞とは未だ愛がある
●同　めづらしかつた鍋祭り
●同　親の嬉しい新世帶
●同　評判のはづよい娘
●同　あれならお氣に入る娘
●見のがして　主人のをれる花の中
●同　炭盜人を哀れがる

〔し の部〕

●知らぬ顏して　施行してゐる陰德者
●同　我大望の時を待
●主が歸り　蜜蜂總出して向ふ
●十人好　鯛と定める進上物
●主　夜の足もともなかぬ犬
●仕業自慢　すはらして見て賣る市松
●同　槻の床の艶鉋
●商賣繁昌　朝起好きの旦那から
●所望ぢやく　薄茶一ぷく菊の客

●所望ぢやく　伯父がはめさす琴の爪
●辛度して　庭へ積む米嬉しう見る
●清水へより　紅付た口わすれてる
●同　新らしい幣苦にさす
●同　しめして通る笠の蟲
●同　尺八しめす旅の僧
●同　旅荷から出ん合ひ藥
●同　先負佛へ手向する
●辭世　書置にあるしかな
●同　捨子の懷中哀れがる
●同　帛紗に染て餅配る
●同　石工も嚏に腕みがく
●同　只夢の世とわらふ歌
●同　讀かへす聲くもつてる
●しようがない　後家が本箱賣拂ふ
●しつかりと　牛乳の利た抱重り
●同　手當りに知る包み銀子
●同　おない年でも春うまれ
●同　手拭のはし放すなよ

●しつかりと　辨當の重い女連
●師走になり　隱居した手も借りに來る
●深切に　敎への汗を愚に流す
●深切な　我も娘のある針師
●七面倒な　媒人が困る方位凝り
●充分食て　客に仕甲斐のある禪僧
●同　耳にも入らぬ杵の音
●しつてちやか　花街育と見ゐぬ嫁
●同　飴屋に聞た子を送る
●同　話のある時見たやうな
●同　今の和尙も客の果
●眞ンになり　侗の間似合ふちから業
●同　輕う籾する母のうた
●しん〳〵と　鳥居〳〵いれば汗がひく
●同　面ンの眼こも彫あがる
●同　鍛ふ刄の研マ聞く
●同　日のさしてある施行水
●支度が出來　先達が人算へてる
●同　日もよし稻の種おろし

●支度が出來　夜明待てる銀子飛脚
●知らして〳〵れ　妾宅に居る切語り
●同　鵜匠も說敎さく月夜
●しら〳〵と　鼻の先だけ在祭り
●同　布引の名を譽る瀧
●同　髮に長齋の色見ゐる
●同　見上げる不靈に汗がひく
●同　師團兵皆頁衣
●同　月山の端に明殘る
●同　澁柿甘う最う食へる
●時節待　庵へ背物を持て退く
●同　運に任して稼でる
●同　諭の合ふまで閑居する
●同　身の正直は天が知る
●同　昔は泣た子で笑ふ
●同　子をたのしみに後家立る
●同　賣急ぎせぬ太い基
●同　慾が養子の辛抱だね
●同　氣をなやさずに職さばる

●しんから好　眠たい事をしらぬ學
●同　我身を我としらぬ酒
●同　母があきれる嫁の針
●しらなんだ　從弟にあんなよい嫁
●同　何時の間に出た花に月
●同　足元の茸連が取る
●辛抱して　養子が見てる達摩の畫
●同　嫁は近所のほまれもの
●同　菊石が吃の聟と添ふ
●仕合者ぢや　捨られた子が緋の衣
●同　八起に產れ出た乙子
●仕方して　手に合はぬ猿欺しとる
●同　嫁は合點の馳走出す

〔ひ の 部〕

●額たれ　涅槃像の象泣た顏
●貧乏して　紙帳釣〻てる琴の糸
●同　雪に歎きの車夫の母
●同　銀子は尊いものと知る

●貧乏して　中身ばかりになる大小
●同　銀子の替りに子が多い
●百になり　齒までも人にほめられる
●同　御前の傍で壽の字かく
●同　孫も曾孫も皺だらけ
●百ばかり　鶴の短冊賀によせる
●同　長壽の中の長壽もの
●同　孫呼で肩叩かせる
●同　つまんだ米の數がある
●引まくり　先生が爰と讀す本
●同　捨た朝がほ露に咲
●日和ほめ　田畑持たねど秋嬉し
●同　鍬を提てる種袋
●引張合ひ　家柄の方へ落た緣
●引もきらす　翌日なきやうに花の人
●聖を招き　八の卷にて退く狸
●人は澤山　何處へ行くとも春ぢやもの
●日の惠　早稻も晩稻も十二分
●同　とけ出す氷のびる草

●日の惠　田水に豐の泡がたつ
●同　日の下からもゑる草
●同　氷はつても死なぬ魚
●同　天が孝子を見はなさぬ
●日もよろし　思ひ立なり旅支度
●同　旅立きめる參宮連
●光かゞやき　嫣が出來たとしれる釜
●同　玉もみがき樣戸もふき樣
●同　大禮服の大將見る
●同　朝寢するのは恐多い
●同　勳章の並ぶ馬の上
●廣い〳〵　日の照る限り下陰は
●同　棧敷ひとりはひよんなもの
●同　百日かゝる疊がへ
●廣うなり　師團のふゑた神の國
●暑てる　青樓の行燈に米高が

〔ゑの部〕

●物も相談　そこは容顏が釣あはす

●元の處へ　筆を運ばす二重文字
●同　どうもこりゃ手繰りた
●同　正直な世の落し銀子
●同　これで祟りのない地藏
●同　日も目出度秋仕舞
●同　ゑんやらさくと戻る鉾
●同　漁師仲間が龜放す
●同　蜻蛉幾度もおなじ枝
●物に馴れ　營所近くも住ひ烏
●同　あの胸算の早い事
●餅がつけ　もう今年もこれで樂
●同　鼠の眼には吉野山
●最うよいな　攝ふた顏に鯛を出す
●同　舞妓座敷へつくり出す
●もうよろし　漬り加減の一夜鮓
●同　見ゑる樣に乳母隱れん坊
●同　なんぼ好でも足つた蕎麥
●同　湯屋でも花の噂する
●同　皺の出來てる心太

●もうよろし　小鮎のはなしする針や
●同　醫者が介抱はめて去ぬ
●戻しに來て　傘に時雨の歌が添ふ
●同　寢てる子そつと渡してる
●同　孝子は惠む銀子受ぬ
●同　恩ある銀子に鯛が添ふ
●同　貸傘に添ふ杜若
●同　臼持ちから畧られた
●同　あと借て出る續き本
●同　豹尾と知た猫笑ふ
●同　面白かつた本はめる
●もが〳〵と　嬉しい返事言にくい
●門　陽炎立てある碧瓦
●同　千代萬代の松飾り
●儲つて　寺普請する開帳あと
●戻りにより　精進あげの座がはづむ
●同　稲荷祭りが紅葉見る
●同　懸乞が梅貰て去ぬ
●門シひらき　自慢の茶席見て貰ふ

●門ひらき　引込松に音頭とる
●同　馬乘初を鳥居まで
●同　蛸店前に出る十夜
●同　御成り出迎ふ牡丹守
●同　禮者の馬車が行違ふ

〔せの部〕

●せ〜まいぞ　一生道具の嫁ぢやもの
●同　縁遠いと言ふ年でない
●同　茶を挽加減をしへてる
●同　愛宕で趁跛脚て遣る
●同　油が切れてな〳〵車
●せかれてる　居酒屋で聞く暮の鐘
●同　お連待して未だ鏡
●同　鏡の中に連が居る
●赤面して　黒石の方と持かへる
●せつないこと　毒と知りつゝ酒で押す
●施餓鬼して　貧者へ惠む米も積む
●同　村長が淵の浮名消す

●せがきして　鳥も御經を聞らしい
●脊伸して　恩賜の義足結構がる
●同　幼男の乳ぢやと登り付
●同　鵜に啼皮の蠅
●千にひとつも　蓮に迷ひの枝がない
●同　聞た兜ひする石母
●同　余は白紙との念の筆
●同　斷てする輕業師
●同　媽も百石買ふて見る
●同　吹革場の壁厚うさす
●同　石拾て見る礦學師
●同　床の下堀夢合せ
●同　鞍馬へも行迷子呼び
●同　見にくい鶴はない屏風
●せんぐりに　悅ぶ盥泣くたらひ
●世間から　我は盡すとしらぬ孝
●善に導き　よい姑に僧がする
●脊中に負　用意の傘が駄賃持
●同　家も所持した蝸牛

●脊中に負　草籠に啼きりぐすす
●同　親の位牌と蠶塲うつ
●同　嫁が炭出す奥山家
●同　盲人が親と川わたる
●同　猿と稼ぐ親貢
●同　矢瀬から生長見せに來る
●同　佛を送る夢の告
●脊中から　饅頭落したよく寢てる
●せき立られ　田樂の手は鳴やまぬ

〔すの部〕

●既の事　猫が蛭子講する處
●同　助けてくれた人をがび
●同　箒で茶碗おさへてる
●同　螢籠丈け流れてる
●すつぱりと　白雨はれず松の月
●砂まぶれ　牡丹餅一つあきらめる
●同　丁稚が糊を呵られる
●する樂しみ　最一人妻が産たがる

●好ぢや〳〵　納豆汁が見のがせぬ
●同　あるうへに買ふ茶の道具
●同　そりや一番が銀子儲
●すこしづゝ　春の絲りののぼる不盡
●煤掃て　春にした間へ親移す
●澄ました　汁つきが底かきまはす
●凄い〳〵　鬼神の面が名な彫人
●同　雪をれを聞く坊どまり
●同　瀧で一心洗ふてる
●同　亂れ髪嚙で夫慕ふ
●同　顔の道具の揃ふ尼
●同　面師の居間へ子が行かぬ
●同　男に成て夜半通ふ
●すつぱりと　思ひ切髪なげく母
●同　氣殘りの銀子施行する
●同　湯殿から春着かへてる
●同　あたまへ操見せる後家
●筋がよい　貰て耻かしない世嗣
●硯出し　夏籠の間にある櫛
●硯出し　今朝の裘サを知る氷
●同　啞習ふてる廓の隙
●住なれて　井戸の蛙も一世界
●筋相が立　もう妾宅が隱居なみ
●すゝめてる　女が先へ醉た顔
●すつぱりまかし　名も法名の樂隱居
●同　中戸から用嫁まかせ
●同　命拾ひに出養生する
●同　養子の買ふた家に住む
●同　佛間から子に鍬渡す

〔京の部〕

●京の人ぢや　眉刷遣ふ旅ながら
●同　紅葉の枝を買て去ぬ
●同　下駄迄粹とほめらるゝ
●同　海見晴しの宿へ着く
●同　草鞋を打て賣た婆々
●同　軍艦見せに連て行
●同　山へ來るのも絹羽織

明治卅三年七月廿五日印刷
同　卅三年八月　二日發行

著作者　信時庵双羽宗匠

發行者　山中勘次郎
京都市三條通寺町西へ入十八番戸

印刷者　須磨勘兵衛
京都市下京區五條通高倉西エ入萬壽寺町十番地

複製不許

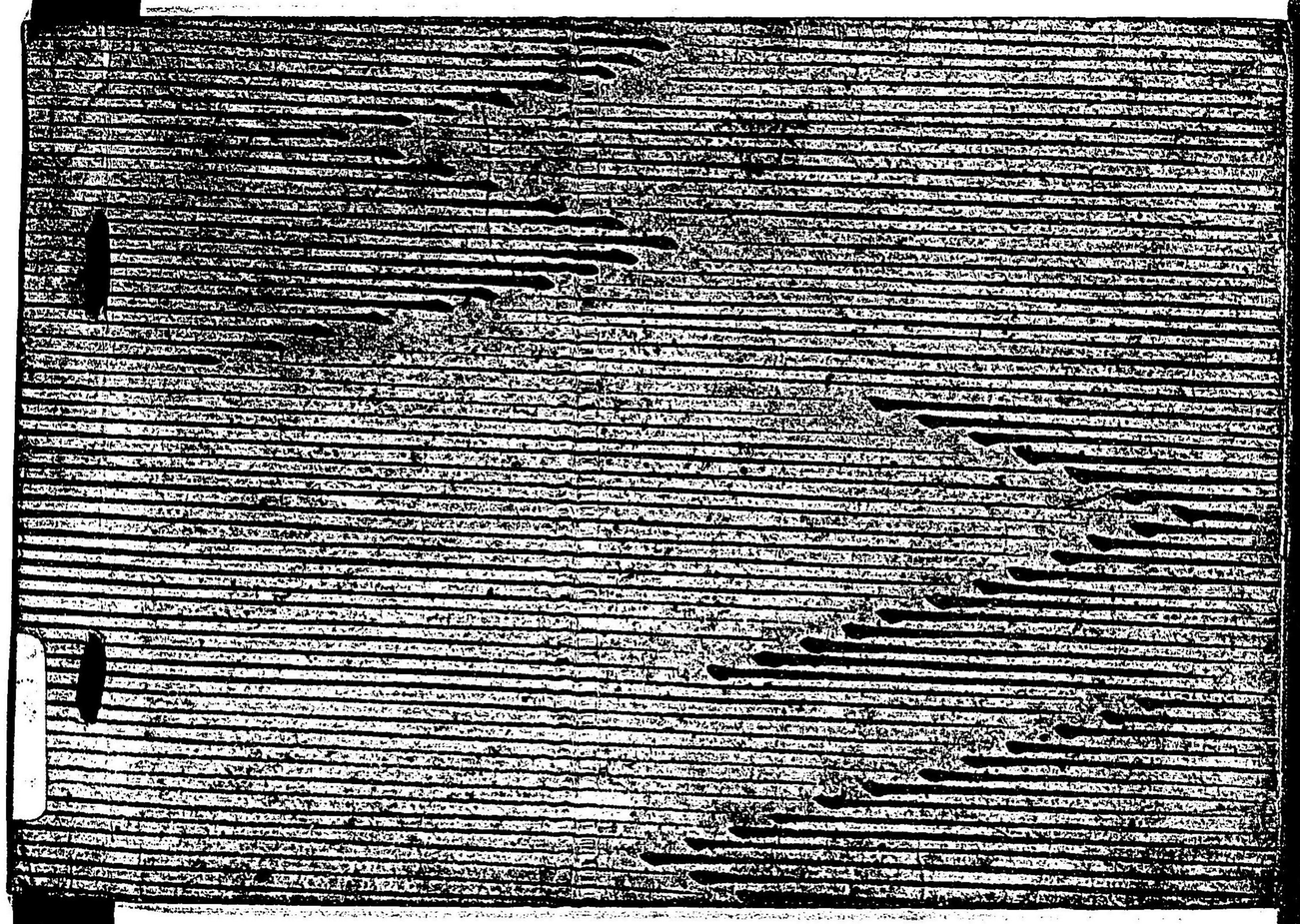
發賣所　杉本甚之助
京都寺町通姉小路上ル

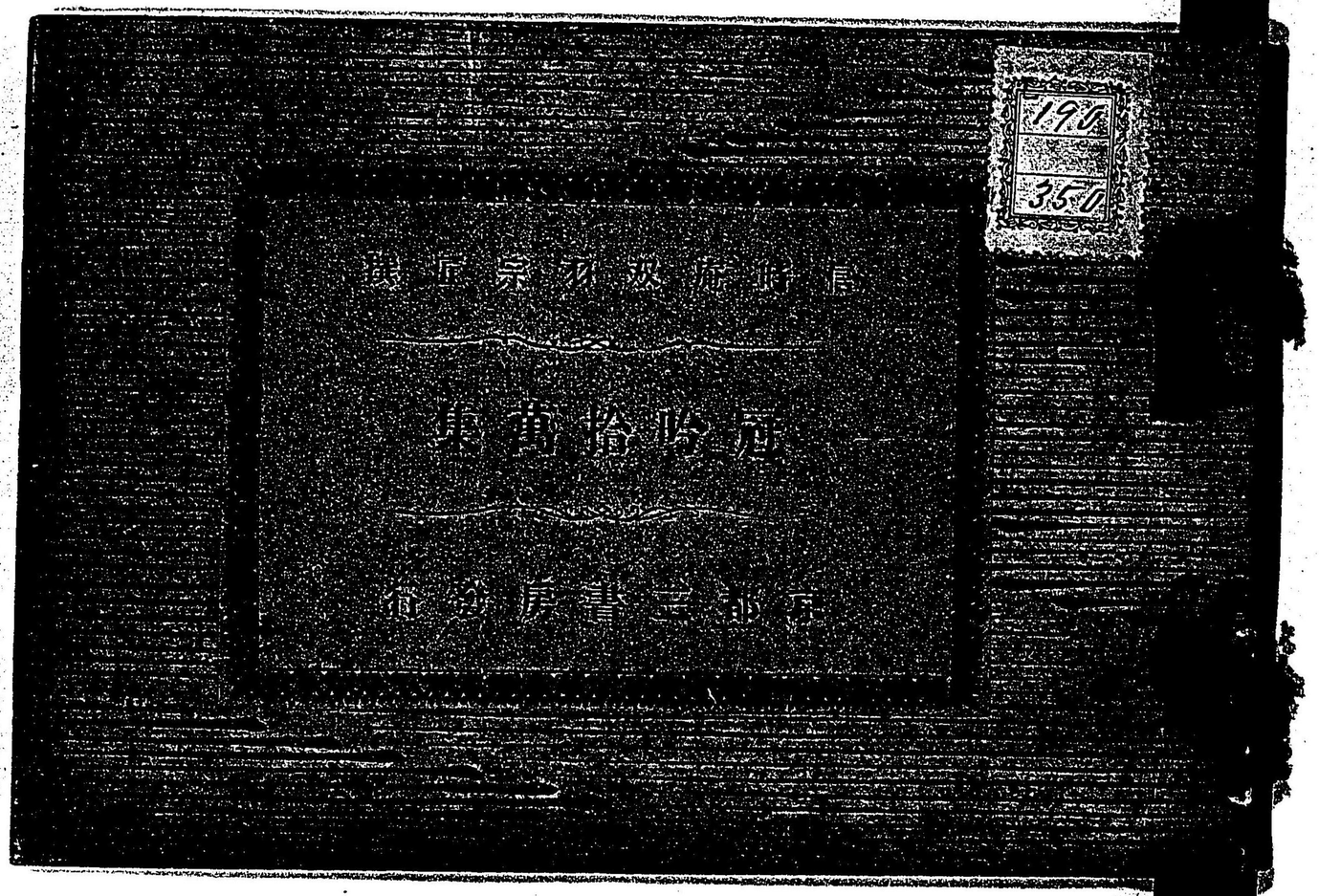
同　中澤達吉
京都市竹屋町通高倉西入

明治卅三年七月廿五日印刷
同　卅三年八月　二日發行

複製不許

著作者　信時庵双羽宗匠
發行者　京都市三條通寺町西へ入十八番戸　山中勘次郎
印刷者　京都市下京區五條通高倉西ヱ入萬壽寺町十番地　須磨勘兵衛
發賣所　京都寺町通姉小路上ル　杉本甚之助
同　京都市竹屋町通高倉西入　中澤達吉





087719-000-9

特28-647

冠吟拾万集

信時庵　双羽／編

M33

DBF-0032